

3-2 復興公営住宅の入居意向

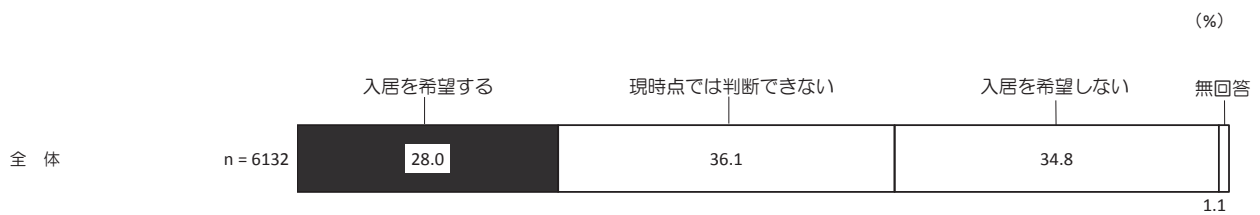
3-2-1 復興公営住宅への入居希望

問 12 現在、福島県は同封資料のとおり、復興公営住宅の整備を予定しています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(〇は1つ)

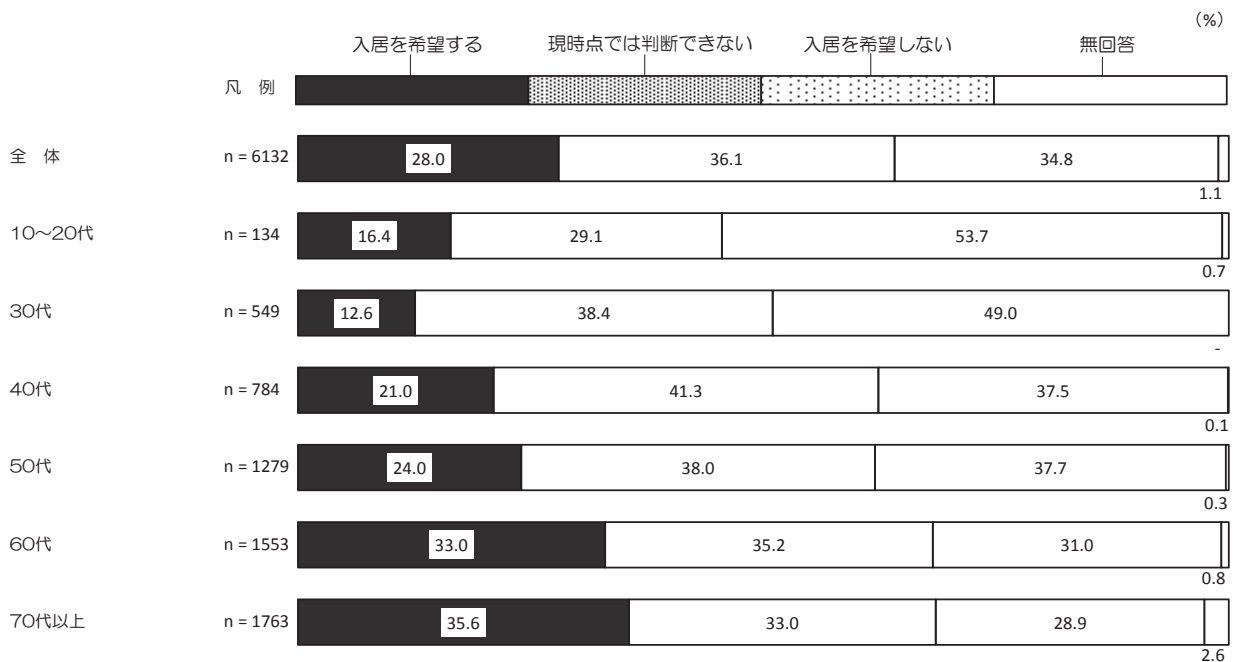
復興公営住宅への入居希望については、「現時点では判断できない」が36.1%と最も高く、次いで「入居を希望しない」が34.8%、「入居を希望する」は28.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「入居を希望する」が30代以上について年齢が高くなるに従って割合も高くなっている一方、10~20代については、「入居を希望しない」が53.7%と過半数を占める。

<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居希望>

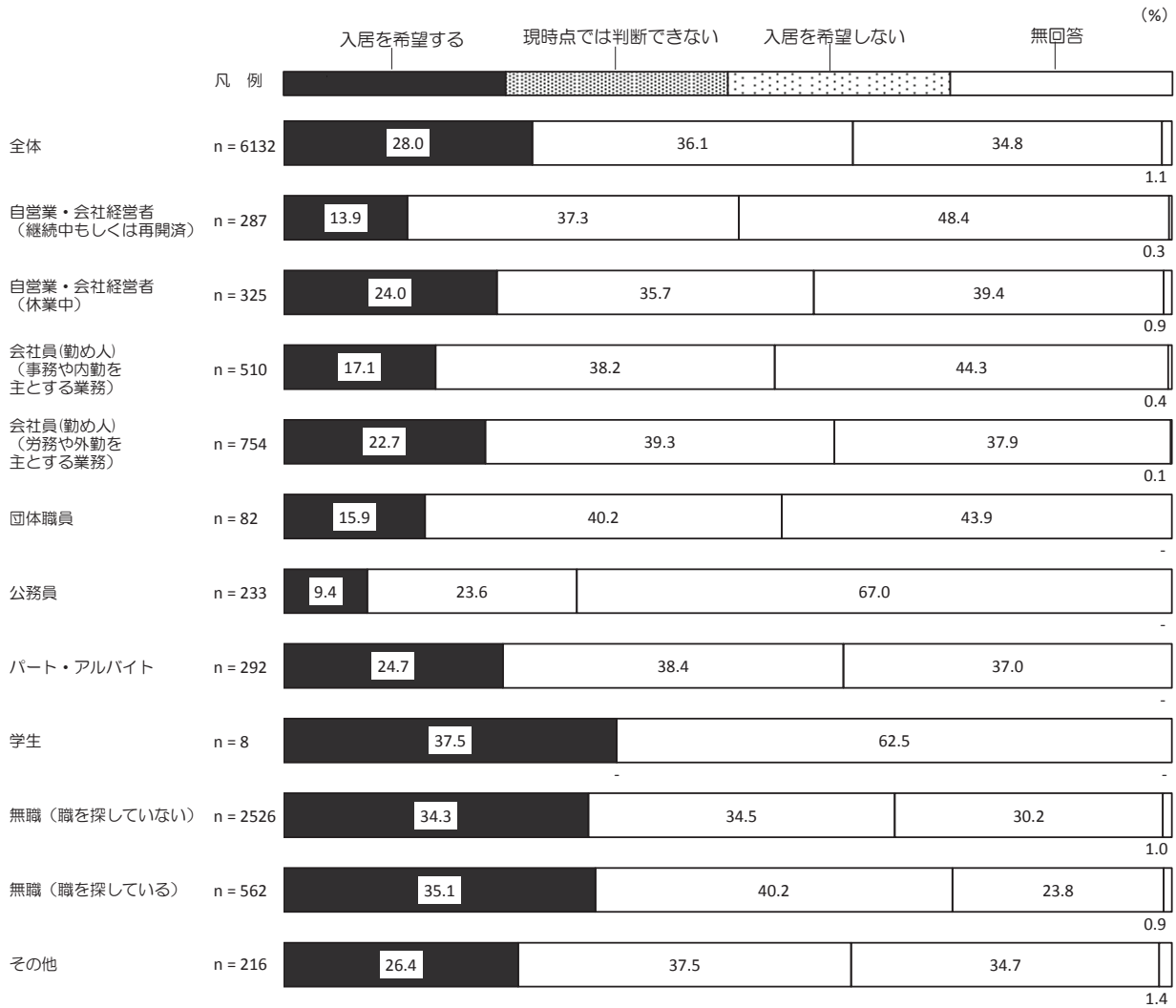


<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居希望（世帯主の年齢別）>



現在の職業別に見ると、「入居を希望する」は無職（職を探している）（35.1%）、無職（職を探していない）（34.3%）で3割を超えており、他の職業と比べて高くなっている。

<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居希望（現在の職業別）>

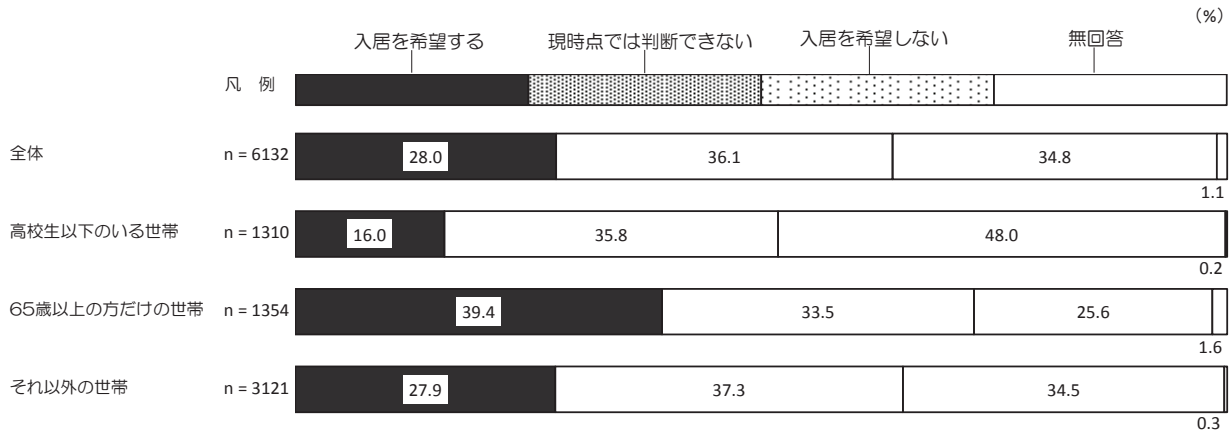


Ⅲ 調査結果

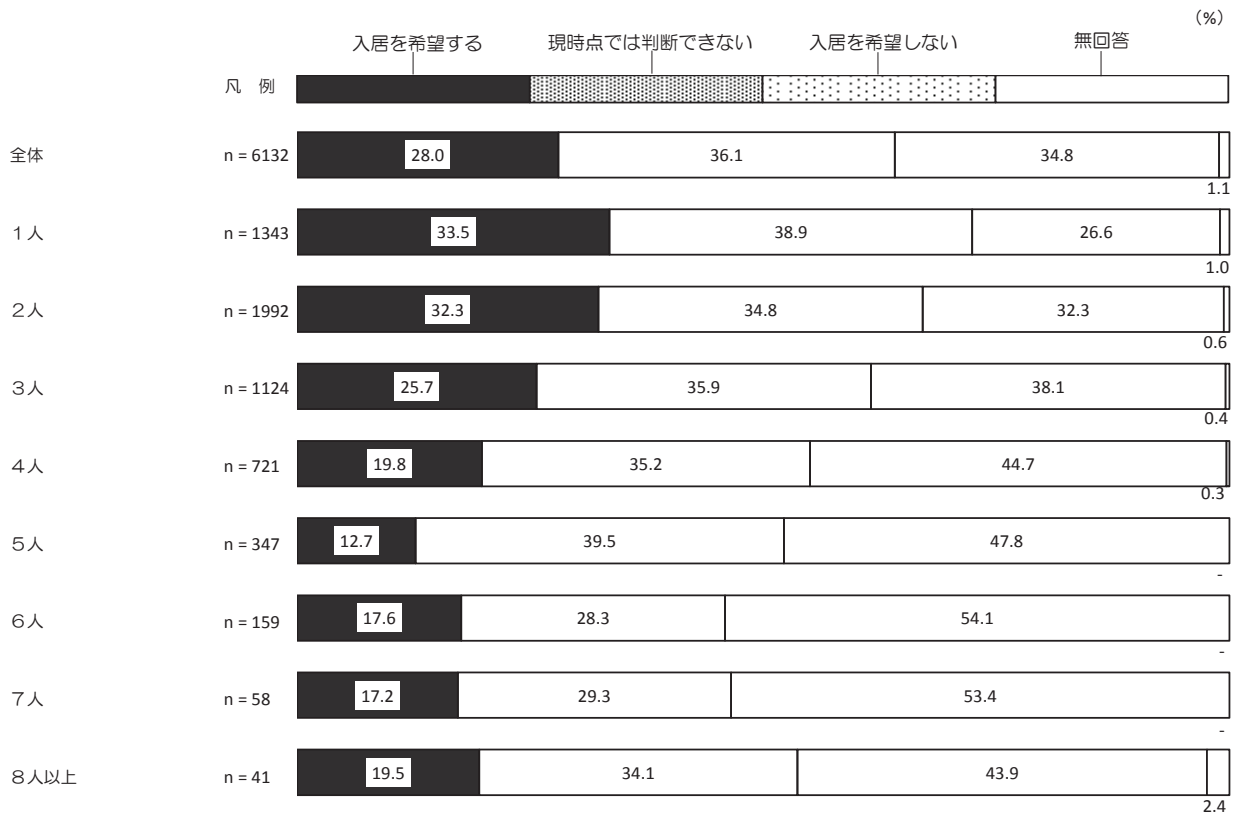
現在の世帯構成別にみると、65歳以上の方だけの世帯では「入居を希望する」が39.4%と約4割となっており、他の世帯構成に比べて高くなっている。

現在の世帯人数別にみると、2人以下では、3割以上が「入居を希望する」となっている一方、4人以上では、「入居を希望しない」が4割を超えている。

＜図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居希望（現在の世帯構成別）＞

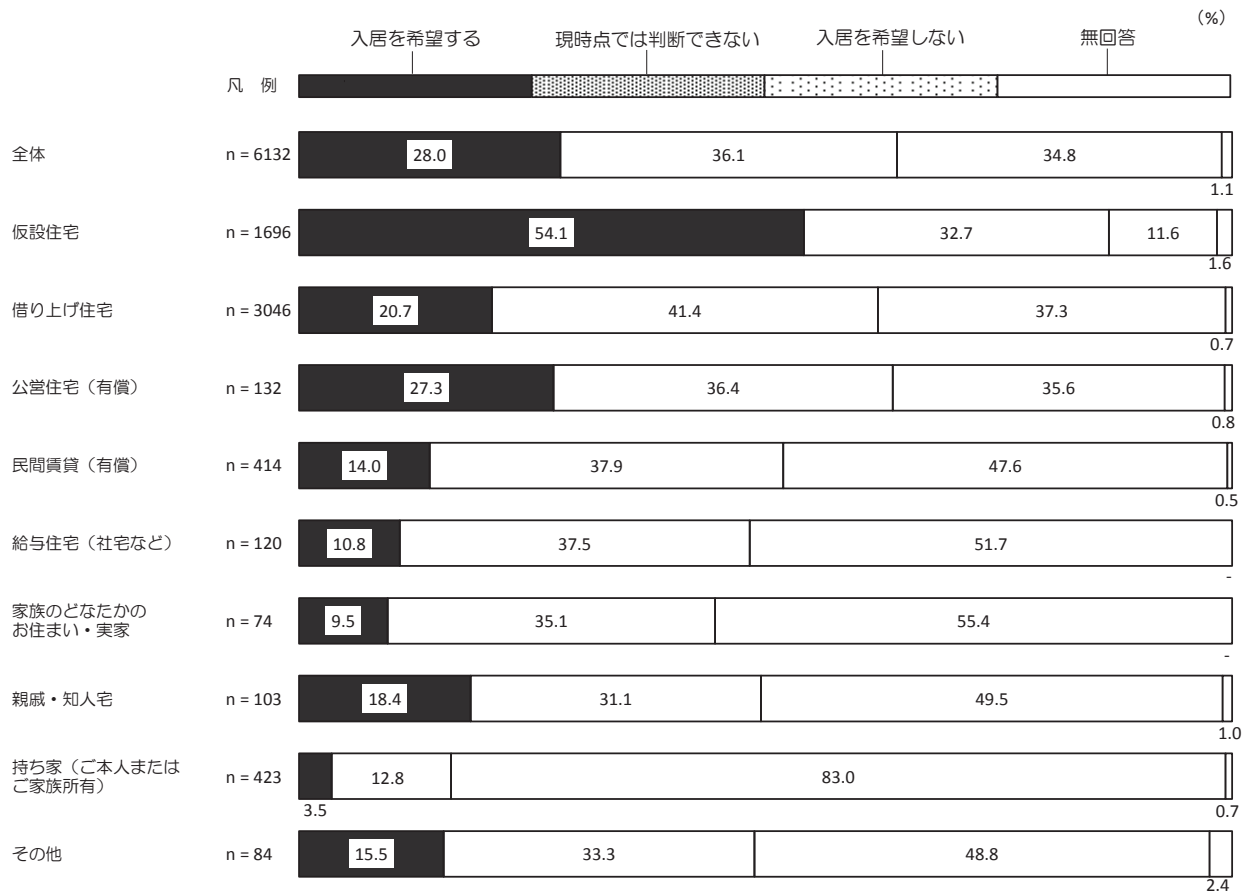


＜図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居希望（現在の世帯人数別）＞



現在の住居形態別にみると、仮設住宅の「入居を希望する」(54.1%)の割合は過半数を占め、他に比べて高くなっている。

<図表3-2-1-6 復興公営住宅への入居希望(現在の住居形態別)>



3-2-2 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由

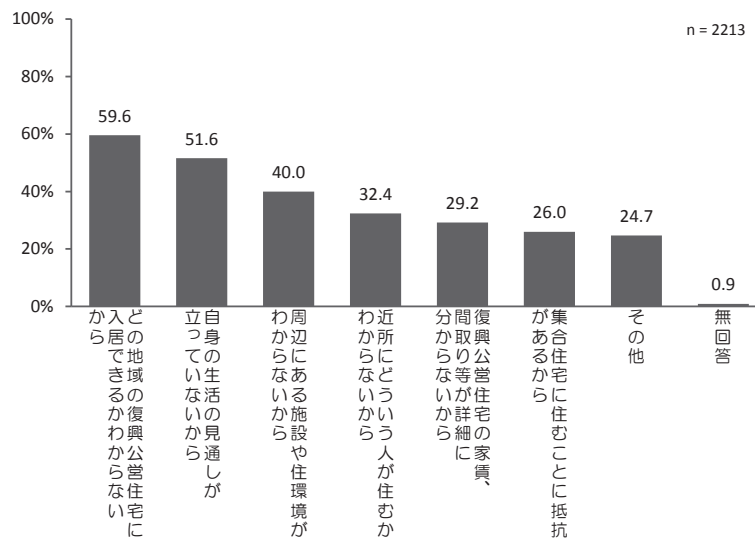
【問 12 で「2.現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

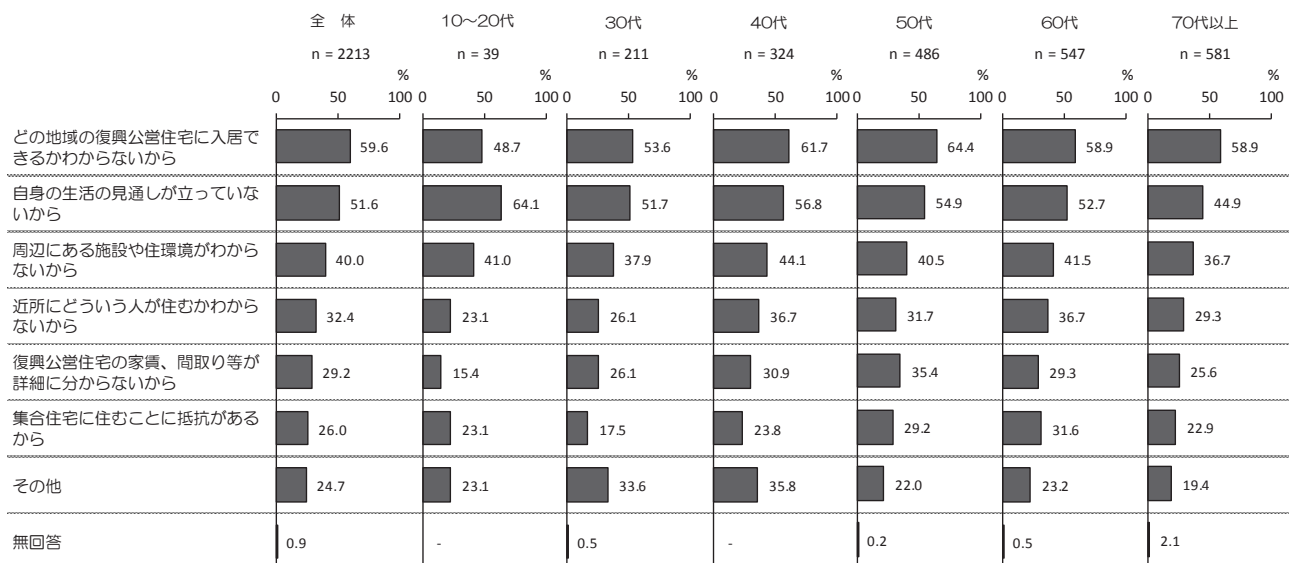
復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由については、「どの地域の復興公営住宅に入居できるかわからないから」が 59.6%と最も高く、次いで「自身の生活の見通しが立っていないから」が 51.6%、「周辺にある施設や住環境がわからないから」が 40.0%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、概ね全体と傾向が同じであるが、10～20代では「自身の生活の見通しが立っていないから」(64.1%)が6割以上となり、他の年齢層と比べて高くなっている。

<図表3-2-2-1 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由>



<図表3-2-2-2 復興公営住宅の入居を現時点で判断できない理由(世帯主の年齢別)>



3-2-3 入居を希望する地域と家族構成

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問12-2 復興公営住宅に入居するに当たって、希望する地域と家族構成をお聞かせください。

<1世帯目>および次ページの<2世帯目>のそれぞれについてお答えください。

あなたのご家族が、1か所の復興公営住宅を希望する場合は、<2世帯目>は(3)で「23」を選び、問12-4へ進んでください。

<1世帯目>

(1)最も希望する自治体を教えてください。(〇は1つ)

(2)家族構成をご記入ください。(人数で回答)※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

<2世帯目>分散して入居を希望しない場合は、(3)で「23」を選び、問12-4へ進んでください。

(3)最も希望する自治体を教えてください。(〇は1つ)

(4)家族構成をご記入ください。(人数で回答)※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

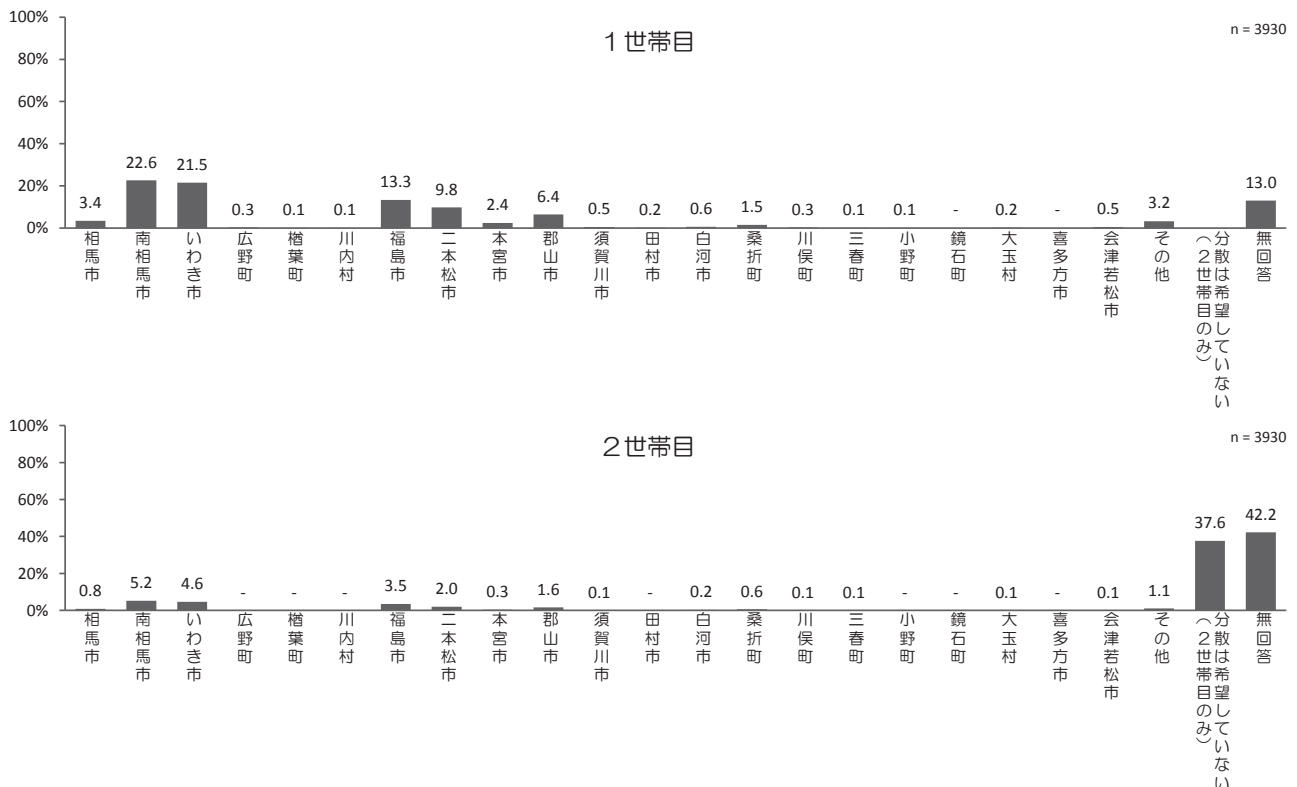
入居を希望する地域<1世帯目>については、「南相馬市」が22.6%と最も高く、次いで「いわき市」(21.5%)、「福島市」(13.3%)となっている。

<1世帯目>の世帯構成は、高校生以下(「未就学児」「小学生」「中学生」「高校生」)が同居する世帯はそれぞれ1割に満たず、「65歳以上の方のいる世帯」は47.8%となっている。世帯人数としては、「2人」が30.9%と最も高く、次いで「1人」が20.4%、「3人」が16.5%となっている。

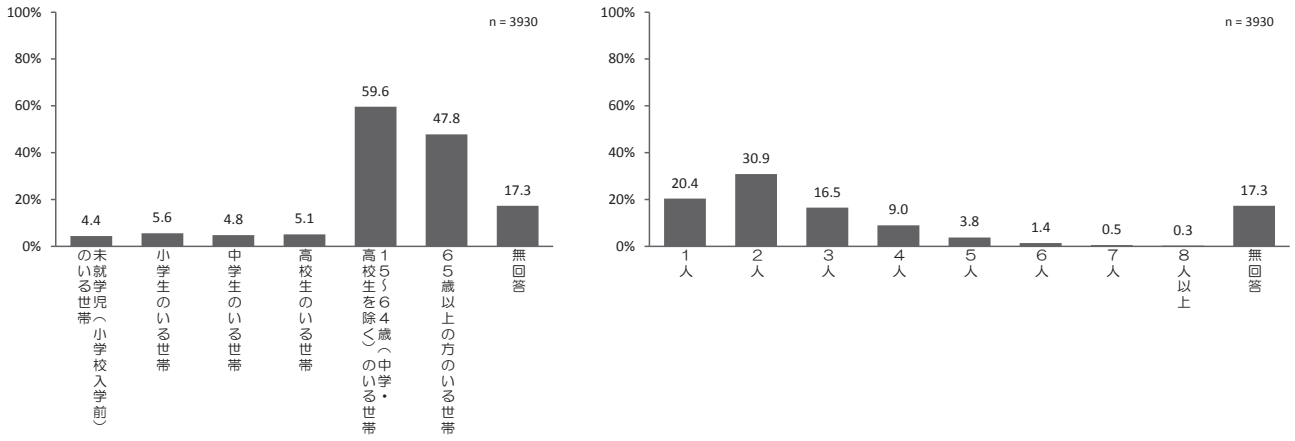
<2世帯目>の入居を希望する地域についても、「南相馬市」が5.2%と最も高く、次いで「いわき市」(4.6%)、「福島市」(3.5%)となっており、「分散は希望していない」は37.6%と3割を超えている。

<2世帯目>の世帯構成・人数は、<1世帯目>と同様の傾向にあるが、世帯人数では、「1人」が24.4%となっており、1世帯目よりやや割合が高くなっている。

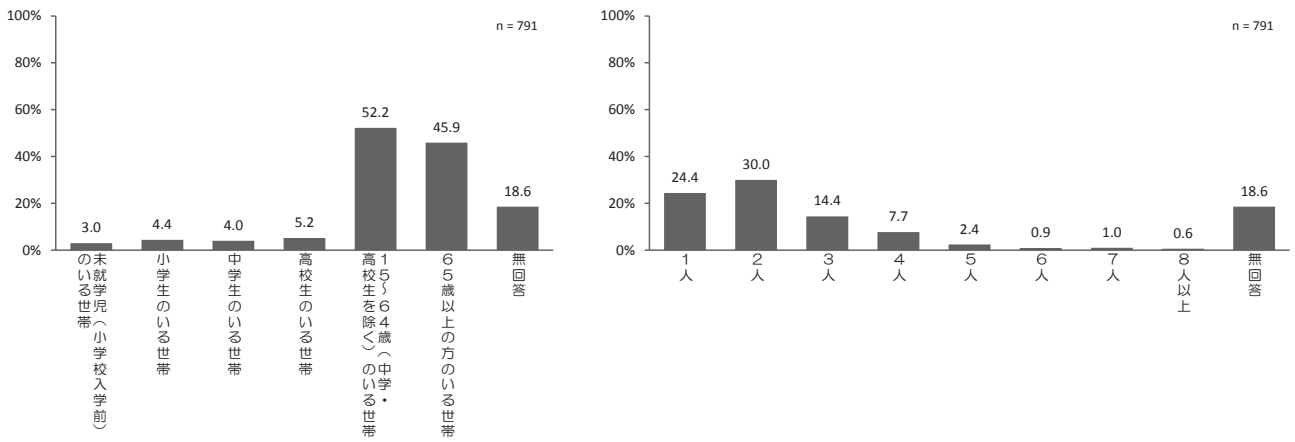
<図表3-2-3-1 入居を希望する地域>



<図表3-2-3-2 入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）>

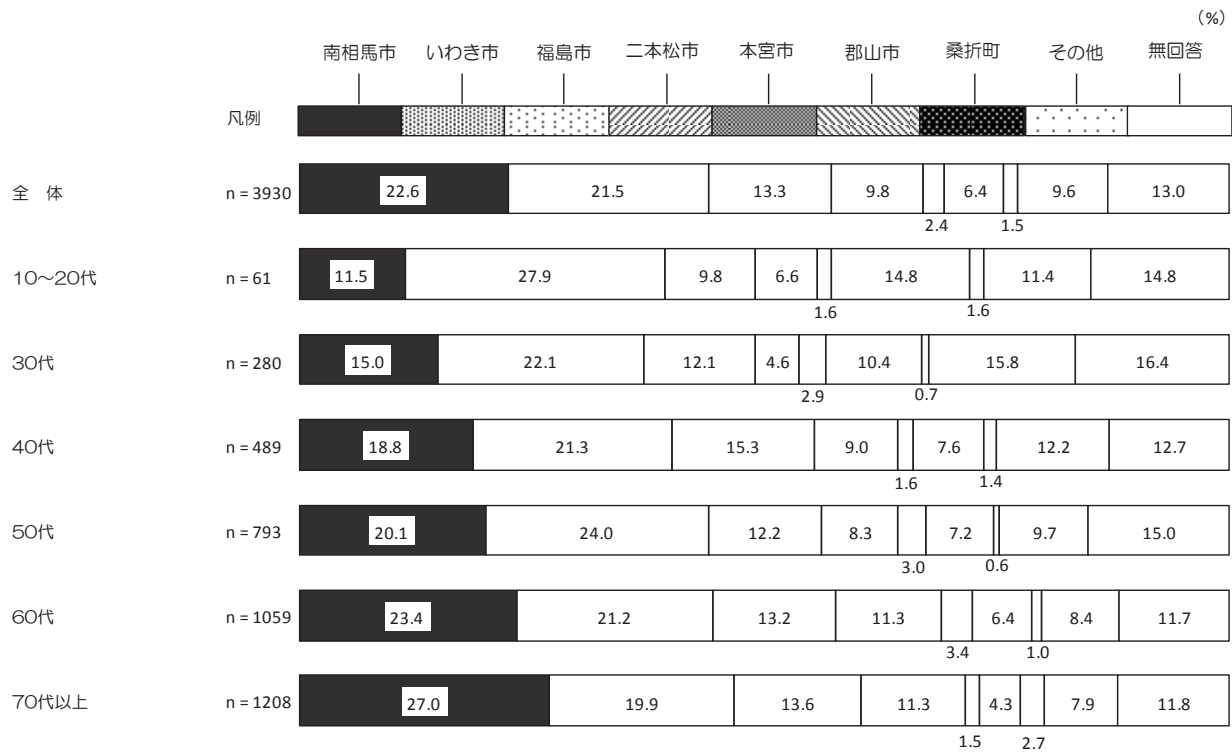


<図表3-2-3-3 入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）>



1世帯目の主な入居希望地域について、世帯主の年齢別にみると、60代以上の年齢層では「南相馬市」が最も高くなっている一方で、50代以下の年齢層では「いわき市」が最も割合が高くなっている。

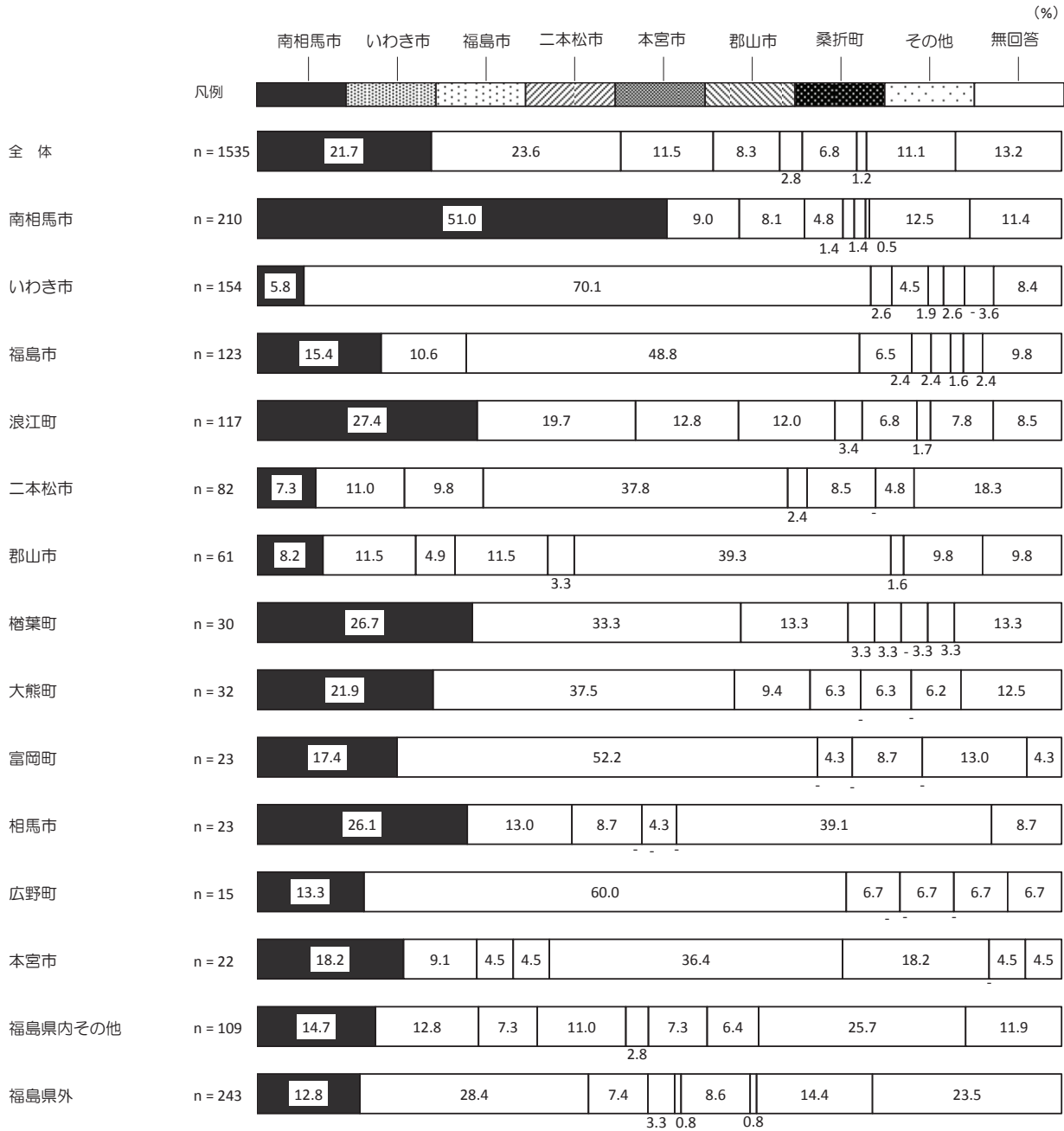
<図表3-2-3-4 入居を希望する主な地域（1世帯目）（世帯主の年齢別）>



Ⅲ 調査結果

1世帯目の主な入居希望地域について、現在の就業先別でみると、全体的に概ね、就業先と同じ自治体の希望が高くなっており、現在南相馬市で就業をしているとした世帯では約5割が「南相馬市」を希望しており、いわき市では7割が「いわき市」を希望している。

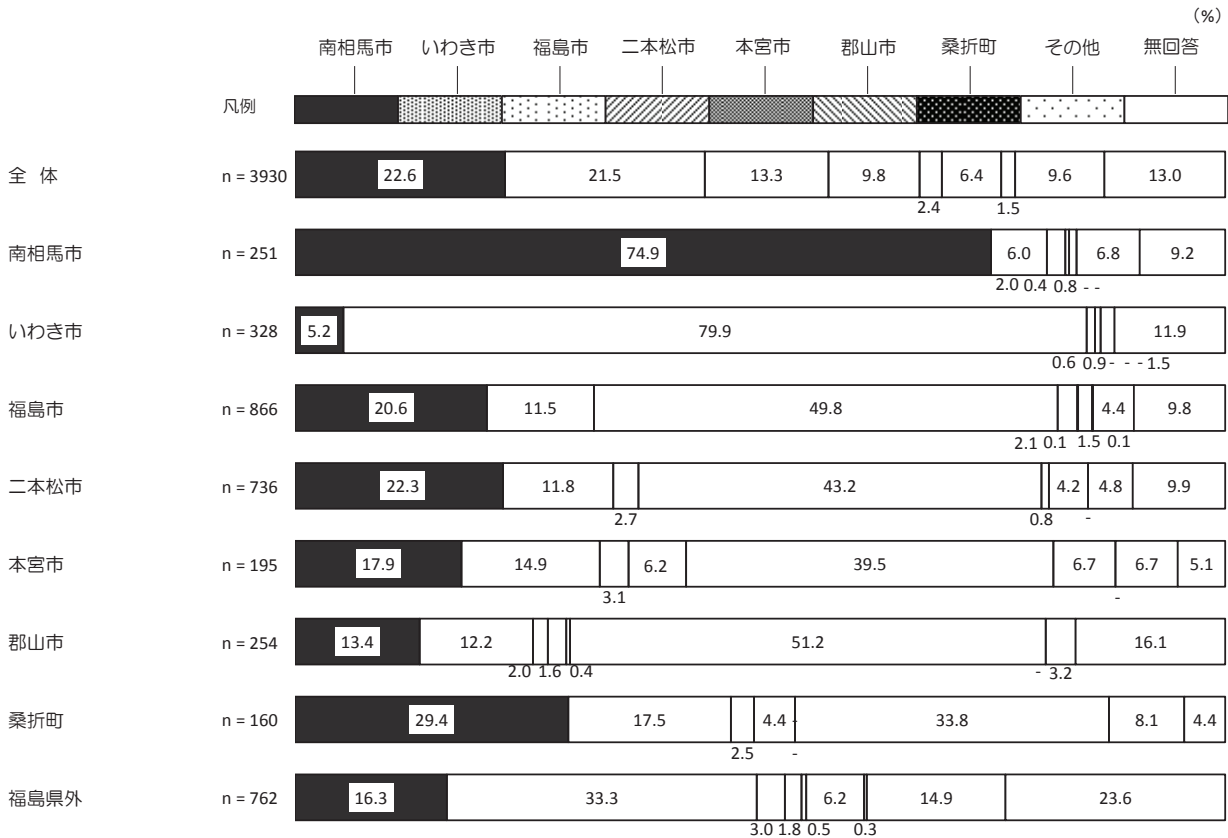
＜図表3-2-3-5 入居を希望する主な地域（1世帯目）（現在の就業先別）＞



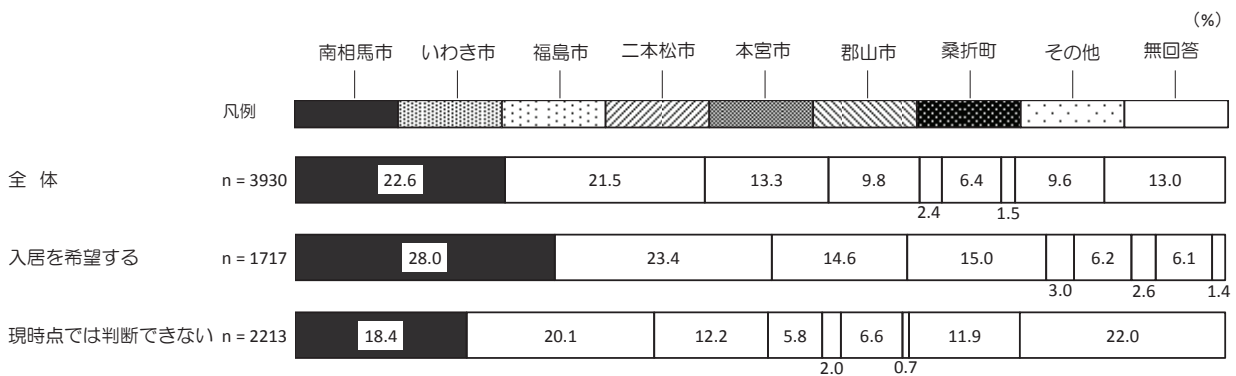
1世帯目の主な入居希望地域について、主な避難先自治体別にみると、「南相馬市」では74.9%が南相馬市を希望しており、「いわき市」では、79.9%がいわき市を希望しており、全体的に避難先の自治体と同じ自治体へ希望する割合が高くなっている。

また、復興公営住宅への入居希望別にみると、入居を希望する世帯は「南相馬市」が28.0%となっている。

<図表3-2-3-6 入居を希望する主な地域（1世帯目）（主な避難先自治体別）>



<図表3-2-3-7 入居を希望する主な地域（1世帯目）（復興公営住宅への入居希望別）>



3-2-4 分散して入居する場合の住居形態

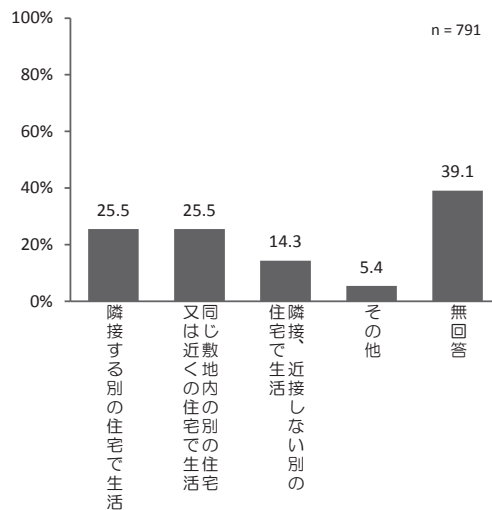
【分散して復興公営住宅へ入居を希望する方（問 12-2（3）で「1」から「22」に回答した方）にうかがいます。】

問 12-3 復興公営住宅へ2戸以上に分かれて入居する場合、現在ご一緒にお住まいの家族との生活について、どのような形を希望しますか。（〇はいくつでも）

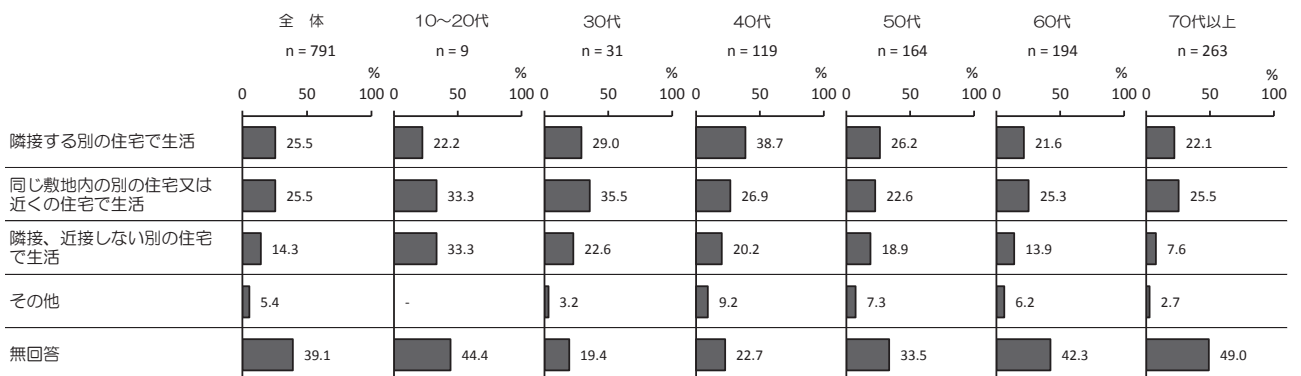
分散して入居する場合の住居形態については、「隣接する別の住宅で生活」と「同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活」がそれぞれ25.5%と最も高く、次いで「隣接、近接しない別の住宅で生活」が14.3%となっている。

世帯主の年齢別にみると、40代では「隣接する別の住宅で生活」が38.7%と3割を超え、他の年齢層に比べて割合が高くなっている。

＜図表3-2-4-1 分散して入居する場合の住居形態＞



＜図表3-2-4-2 分散して入居する場合の住居形態（世帯主の年齢別）＞



3-2-5 分散して避難している家族との同居意向

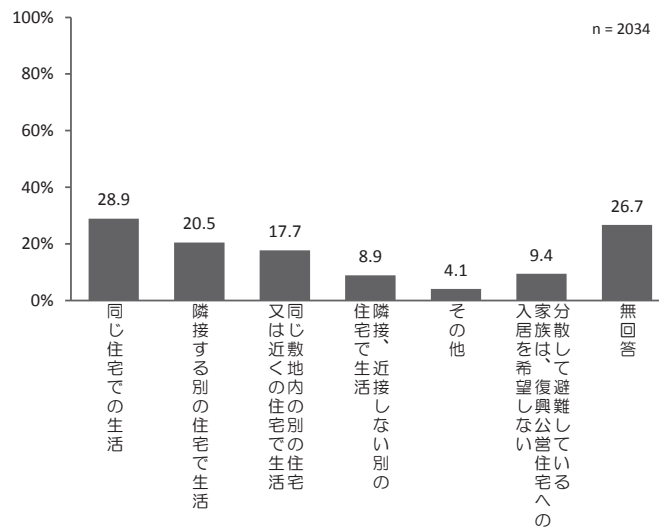
【現在分散して避難されている方（問8（3）で「2」から「4」と回答した方）にうかがいます。】

問 12-4 復興公営住宅に入居する場合、分散して避難している家族との同居について、どのような形を希望しますか。（〇はいくつでも）

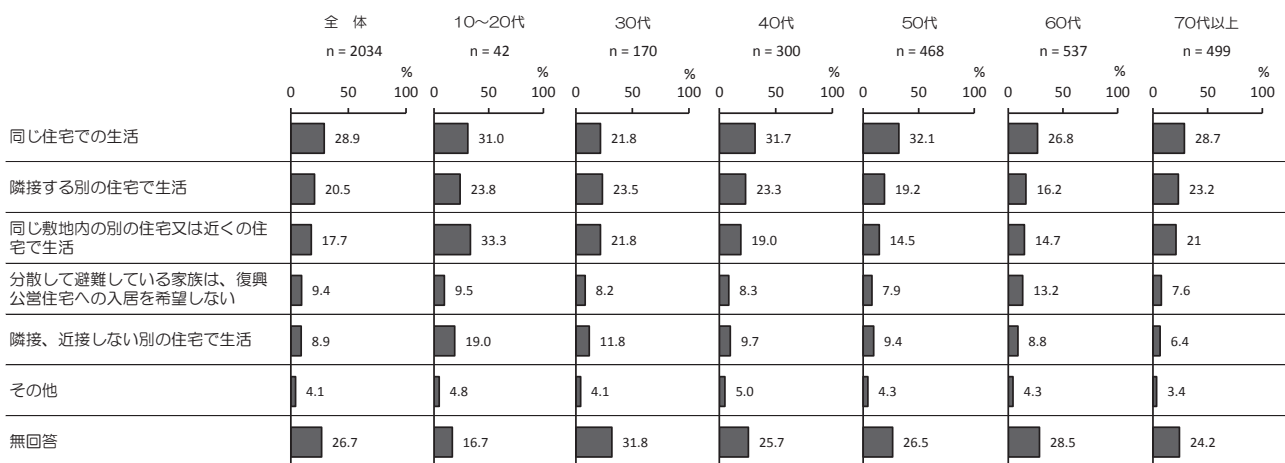
分散して避難している家族との同居意向については、「同じ住宅での生活」が28.9%と最も高く、次いで「隣接する別の住宅で生活」が20.5%、「同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活」が17.7%となっている。

世帯主の年齢別にみると、どの年齢層でも全体的な傾向と概ね同じだが、10～20代については「同じ敷地内の別の住宅又は近くの住宅で生活」が33.3%となっており、最も割合が高くなっている。

<図表3-2-5-1 分散して避難している家族との同居意向>



<図表3-2-5-2 分散して避難している家族との同居意向（世帯主の年齢別）>



3-2-6 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

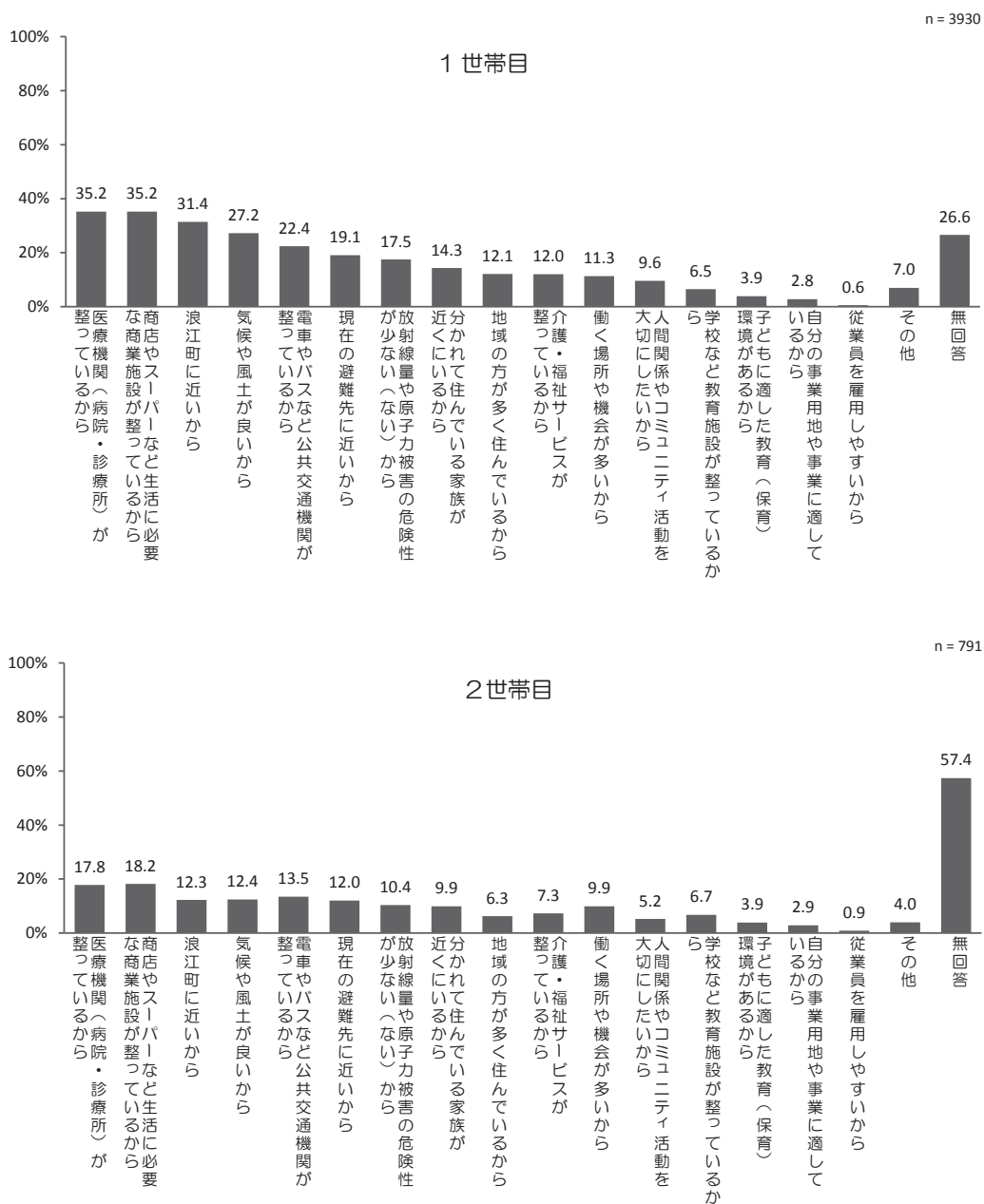
問12-5 あなたが希望する自治体としてご回答になられた理由はどのような理由ですか。

ご家族が分散して入居を希望する場合には、それぞれ番号をお選びください。（世帯ごとに、〇はいくつでも）

復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由については、1世帯目に関しては、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」がそれぞれ35.2%と最も高く、次いで「浪江町に近いから」が31.4%などとなっている。

なお、2世帯目に関しては、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」が18.2%と最も高く、次いで、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」が17.8%となっている。

＜図表3-2-6-1 復興公営住宅に入居を希望する自治体を選んだ理由＞



世帯主の年齢別にみると、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」は、高齢層を中心に全体的に高い傾向にあるが、50代以下では「働く場所や機会が多いから」が60代以上の年齢層と比べて高くなっている。

また、「浪江町に近いから」は、概ね年齢が高くなるに従ってその割合も高くなっている。一方、「現在の避難先に近いから」は年齢が高くなるに従ってその割合も低くなっている。

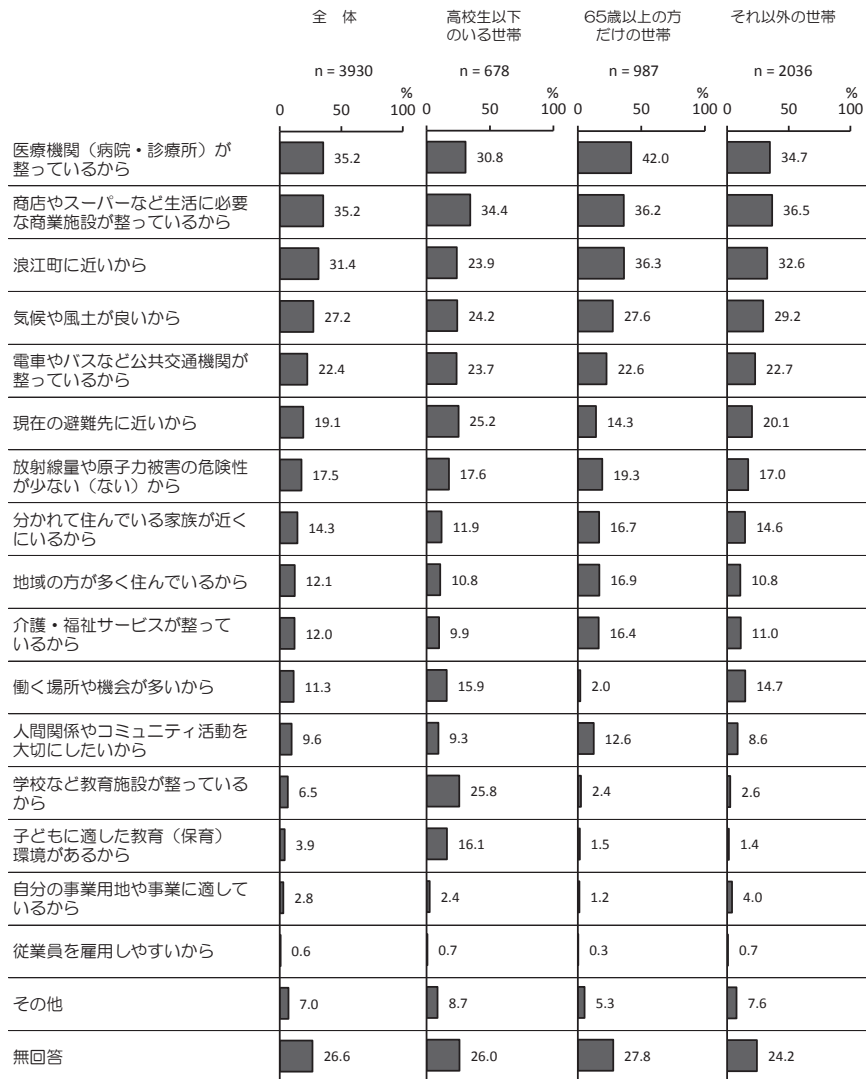
＜図表3-2-6-2 復興公営住宅（1世帯目）に入居を希望する自治体を選んだ理由（世帯主の年齢別）＞

	全体 n = 3930			10~20代 n = 61			30代 n = 280			40代 n = 489			50代 n = 793			60代 n = 1059			70代以上 n = 1208		
	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100
医療機関（病院・診療所）が整っているから		35.2			32.8			23.6			32.3			30.3			38.2			40.0	
商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから		35.2			37.7			27.9			37.4			34.2			37.3			35.2	
浪江町に近いから		31.4			16.4			24.3			25.6			28.5			34.9			34.8	
気候や風土が良いから		27.2			24.6			23.9			24.1			27.6			30.2			26.4	
電車やバスなど公共交通機関が整っているから		22.4			27.9			17.5			24.3			21.4			25.2			20.5	
現在の避難先に近いから		19.1			32.8			26.1			26.4			23.0			16.2			13.8	
放射線量や原子力被害の危険性が少ない（ない）から		17.5			16.4			11.1			16.2			18.0			18.7			18.3	
分かれて住んでいる家族が近くにいるから		14.3			23.0			14.6			13.3			13.0			15.2			14.6	
地域の方が多く住んでいるから		12.1			14.8			8.9			10.8			9.8			12.5			14.4	
介護・福祉サービスが整っているから		12.0			14.8			5.4			8.0			8.4			12.6			16.9	
働く場所や機会が多いから		11.3			32.8			18.2			24.7			17.8			7.6			2.6	
人間関係やコミュニティ活動を大切にしたいから		9.6			11.5			8.9			10.0			6.3			10.2			11.3	
学校など教育施設が整っているから		6.5			18.0			14.6			17.4			5.4			3.2			3.0	
子どもに適した教育（保育）環境があるから		3.9			9.8			10.0			10.2			3.4			2.0			1.8	
自分の事業用地や事業に適しているから		2.8			8.2			4.6			3.5			4.5			2.4			1.2	
従業員を雇用しやすいから		0.6			-			0.7			1.0			1.0			0.5			0.4	
その他		7.0			6.6			9.6			12.5			9.7			4.5			4.6	
無回答		26.6			26.2			24.3			21.7			26.5			25.4			30.5	

III 調査結果

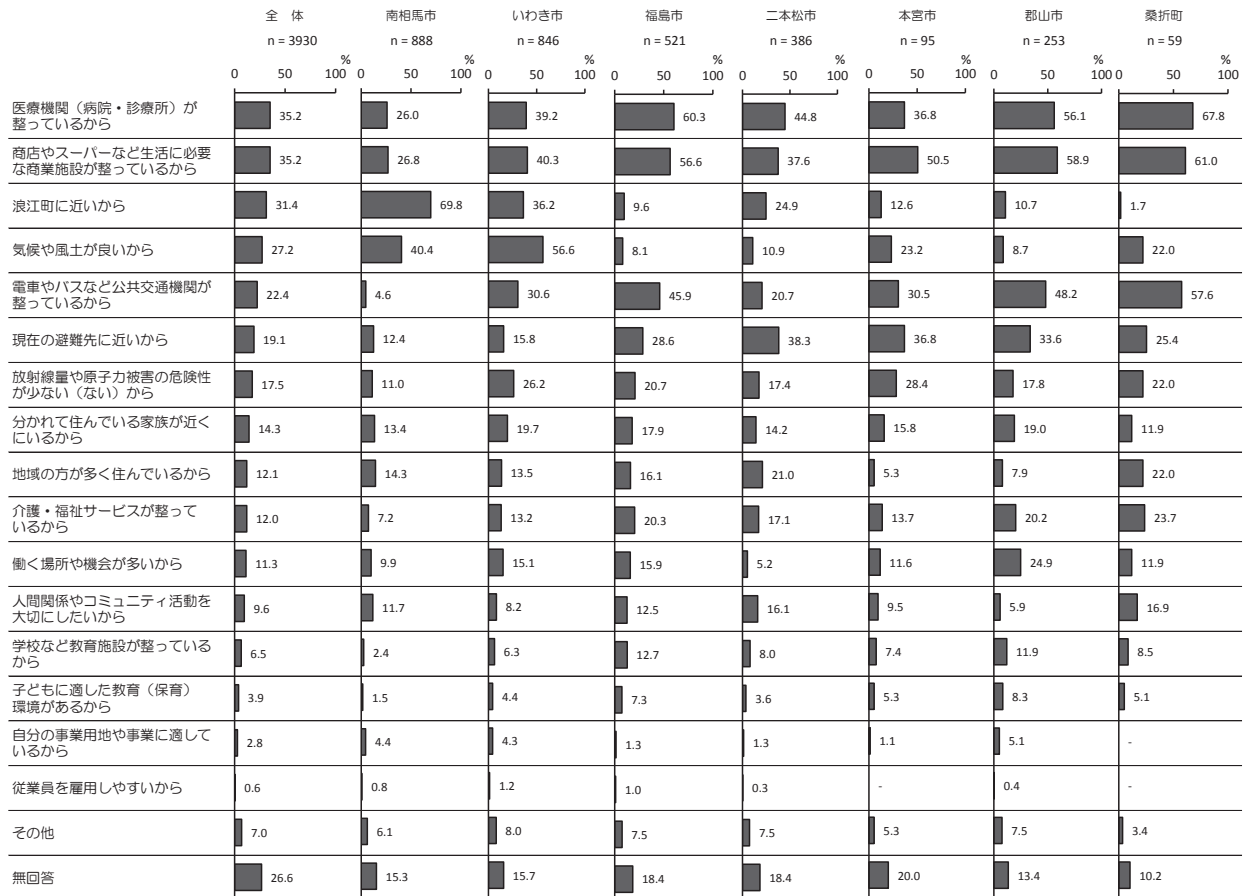
現在の世帯構成別にみると、65歳以上の方だけの世帯で「医療機関（病院・診療所）が整っているから」が42.0%と最も高くなっているが、高校生以下のいる世帯とそれ以外の世帯では、「商店やスーパーなど生活に必要な商業施設が整っているから」がそれぞれ最も割合が高くなっている。

＜図表3-2-6-3 復興公営住宅（1世帯目）に入居を希望する自治体を選んだ理由（現在の世帯構成別）＞



復興公営住宅に入居を希望する主な地域（1世帯目）別にみると、「医療機関（病院・診療所）が整っているから」は、福島市、桑折町で最も高くなっている。一方、南相馬市へ入居を希望する世帯では、「浪江町に近いから」が約7割、いわき市へ入居を希望する世帯では「気候や風土が良いから」が約6割と高くなっている。

<図表3-2-6-4 復興公営住宅（1世帯目）に入居を希望する自治体を選んだ理由（入居を希望する主な地域別）>



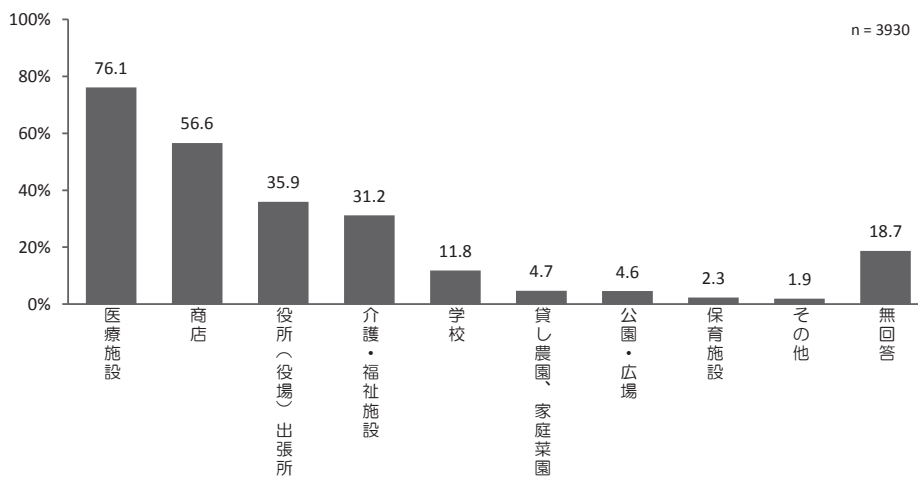
3-2-7 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能

【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

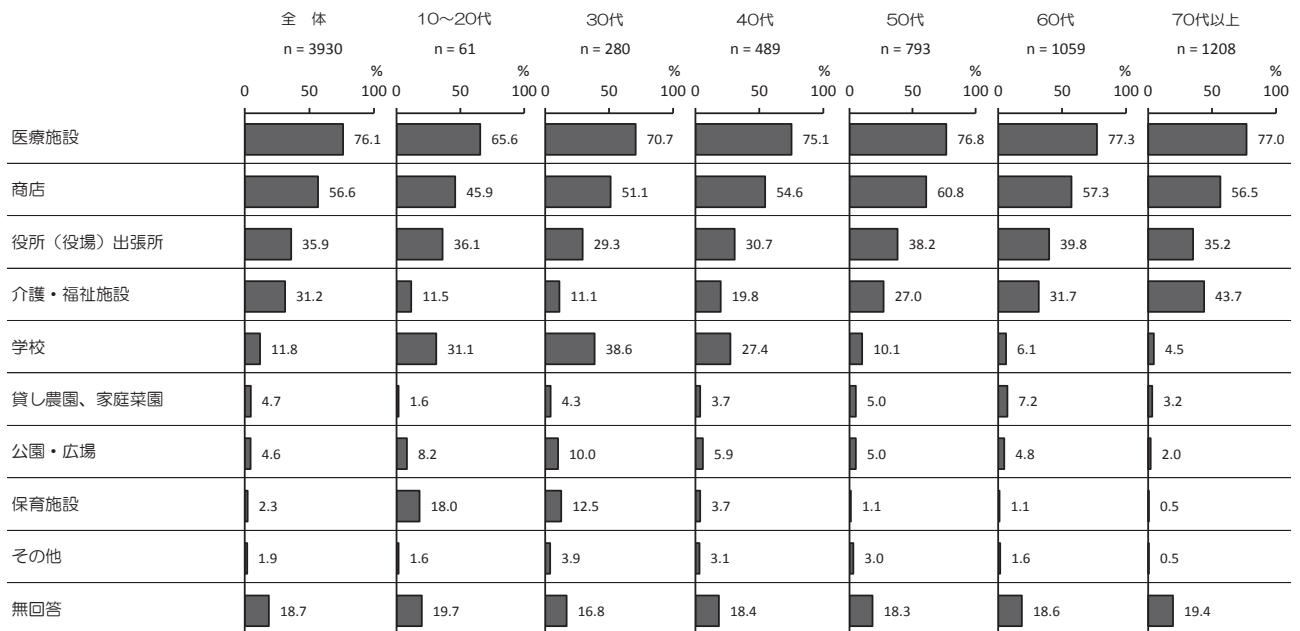
問12-6 復興公営住宅に入居する場合に、その住宅に近接する施設、機能として必要だと思うものは何ですか。
（〇は3つまで）

復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能については、「医療施設」が76.1%と最も高く、次いで「商店」が56.6%、「役所（役場）出張所」が35.9%、「介護・福祉施設」が31.2%などとなっている。
世帯主の年齢別にみると、「医療施設」がいずれの年齢層でも最も高くなっているが、40代以下では「学校」が約3割と他の年齢層と比べて高くなっている。

<図表3-2-7-1 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能>



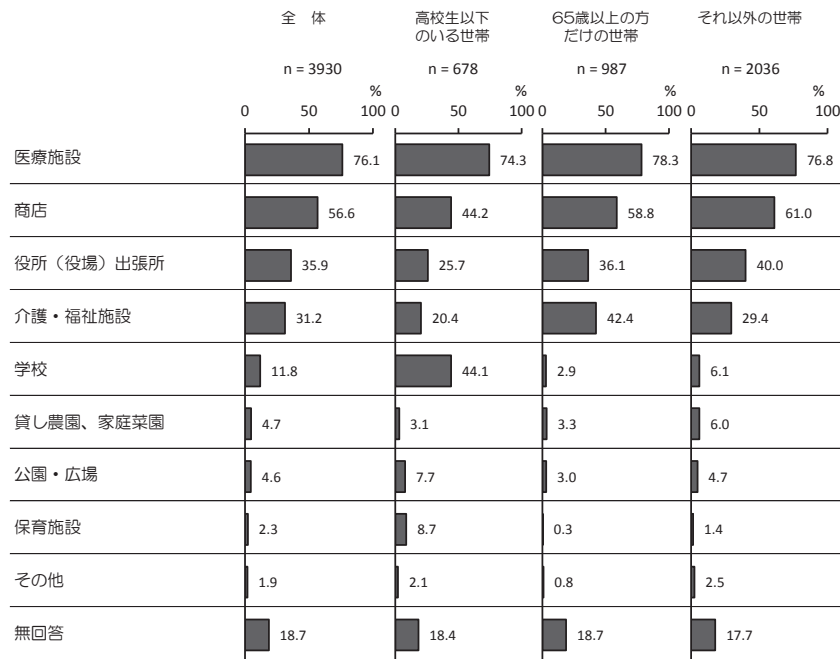
<図表3-2-7-2 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（世帯主の年齢別）>



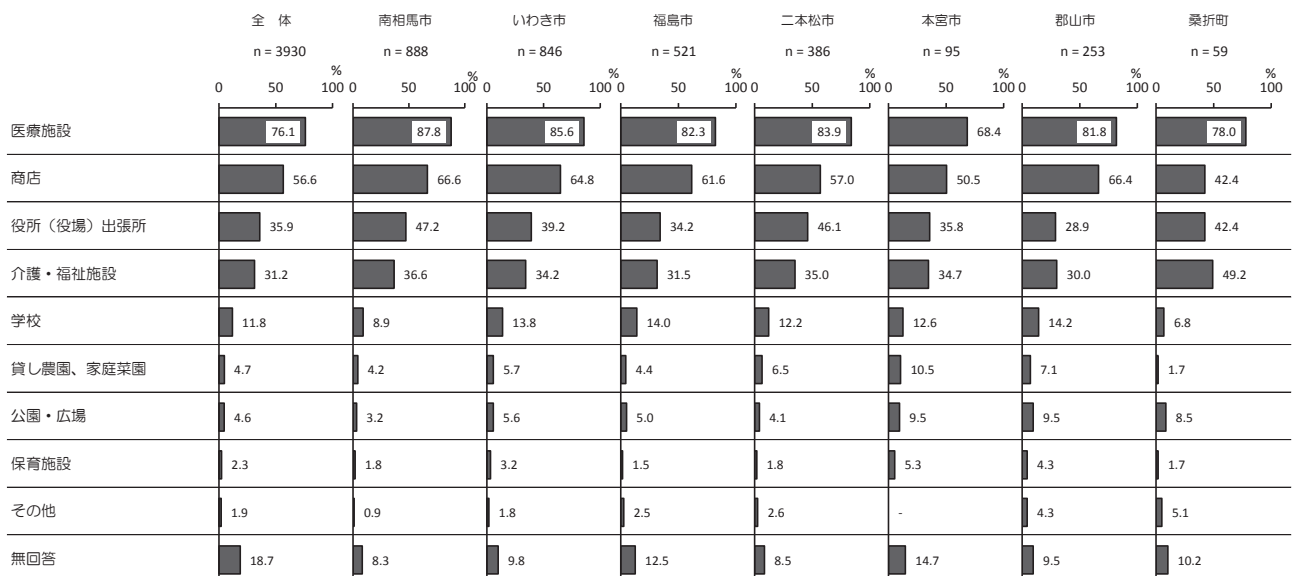
現在の世帯構成別にみると、「医療施設」がいずれの世帯構成でも最も高くなっているが、65歳以上の方だけの世帯では「介護・福祉施設」（42.4%）が、高校生以下のいる世帯では「学校」（44.1%）が、他の世帯構成と比べて割合が高くなっている。

復興公営住宅に入居を希望する主な地域（1世帯目）別にみると、いずれの地域においても「医療施設」の割合が高くなっている。

<図表3-2-7-3 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（現在の世帯構成別）>



<図表3-2-7-4 復興公営住宅の近隣に必要な施設・機能（入居を希望する主な地域（1世帯目）別）>



3-2-8 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス

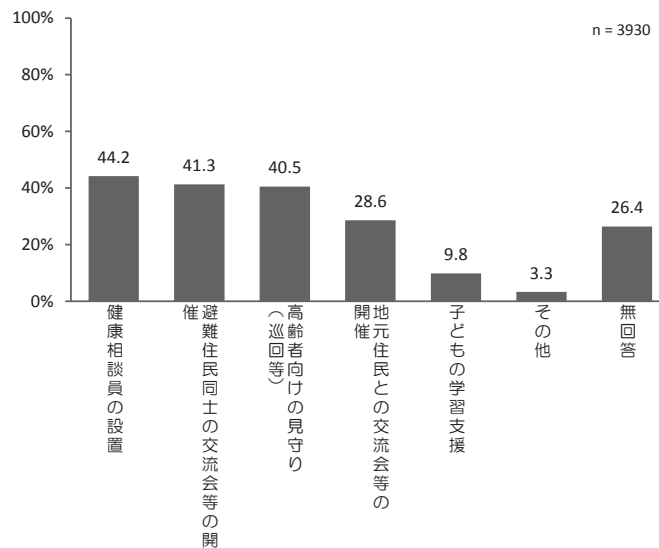
【復興公営住宅へ入居を検討する方（問12で「1」、「2」と回答した方）にうかがいます。】

問12-7 復興公営住宅に入居する場合、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

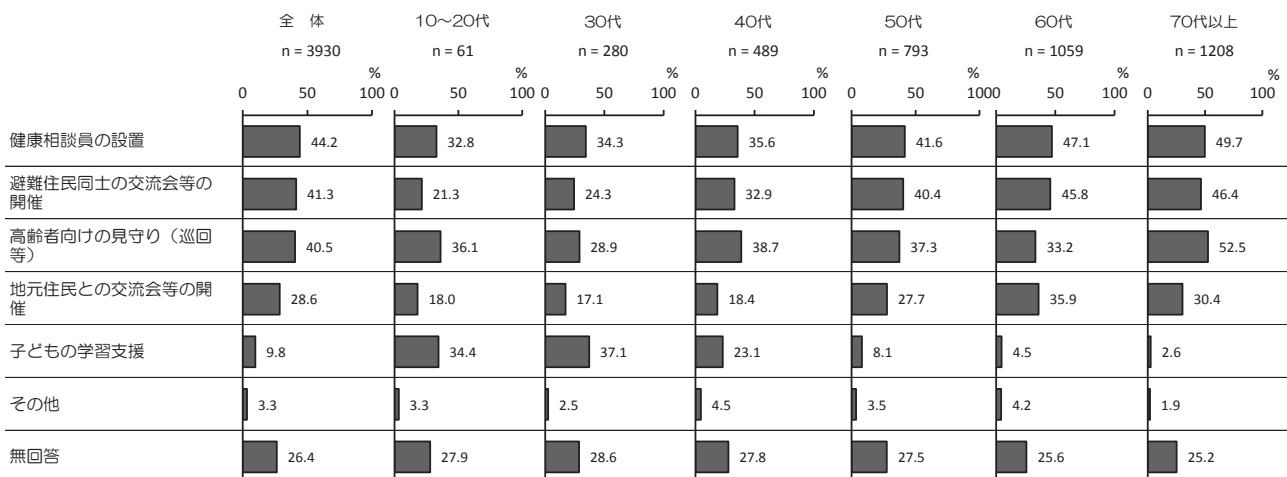
復興公営住宅に入居する場合に必要なサービスについては、「健康相談員の設置」が44.2%と最も高く、次いで「避難住民同士の交流会等の開催」が41.3%、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が40.5%などとなっている。

世帯主の年齢別にみると、「健康相談員の設置」、「避難住民同士の交流会等の開催」は、年齢が高くなるに従ってその割合も高くなっている。一方、40代以下では「子どもの学習支援」が他の年齢層に比べて、その割合が高くなっている。

<図表3-2-8-1 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス>



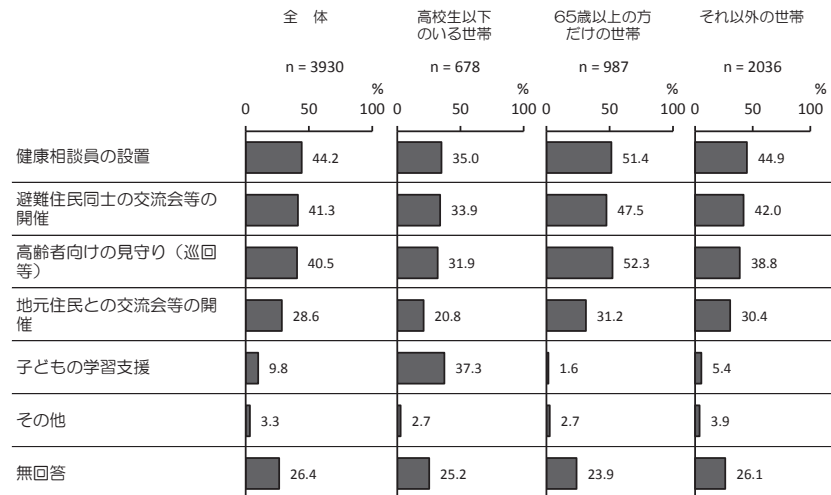
<図表3-2-8-2 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス（世帯主の年齢別）>



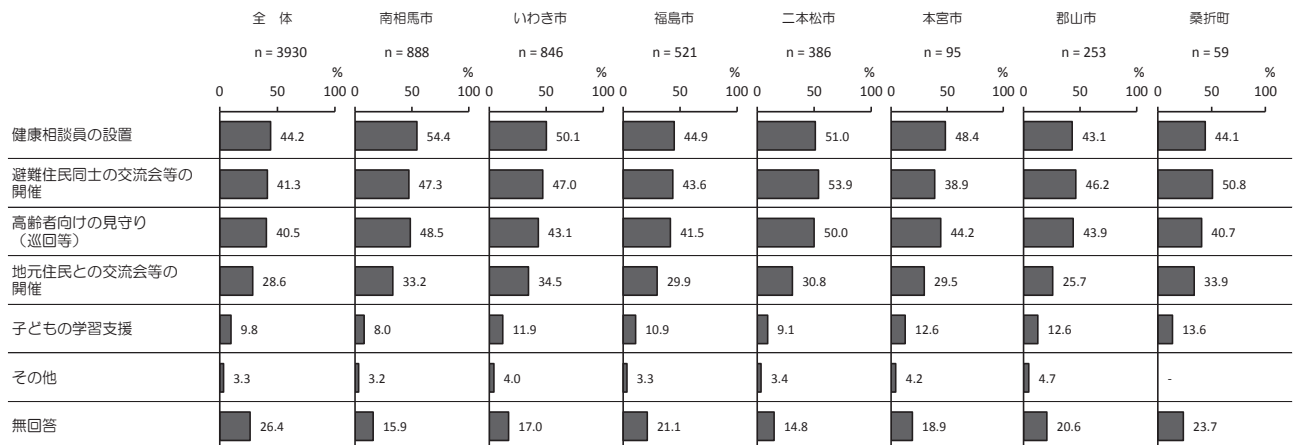
現在の世帯構成別にみると、「健康相談員の設置」、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は、65歳以上の方だけの世帯で5割を超え高くなっている。一方で、高校生以下のいる世帯では「子どもの学習支援」（37.3%）が最も高くなっている。

復興公営住宅に入居を希望する主な地域（1世帯目）別にみると、「避難住民同士の交流会等の開催」は、二本松市（53.9%）、桑折町（50.8%）で過半数を占めている。

<図表3-2-8-3 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス（現在の世帯構成別）>



<図表3-2-8-4 復興公営住宅に入居する場合に必要なサービス（入居を希望する主な地域（1世帯目）別）>



3-2-9 復興公営住宅以外の避難期間中の住居

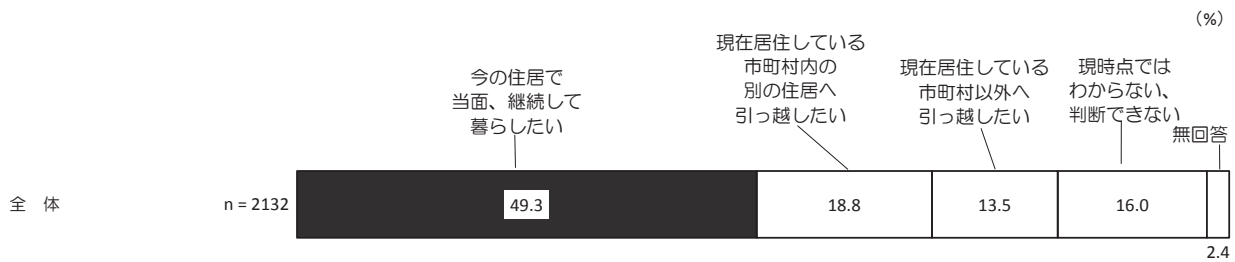
【問 12 で「3.入居を希望しない」と回答した方にかがいます。】

問 12-8 あなたは今後の避難期間中の住居をどのようにお考えですか。(〇は1つ)

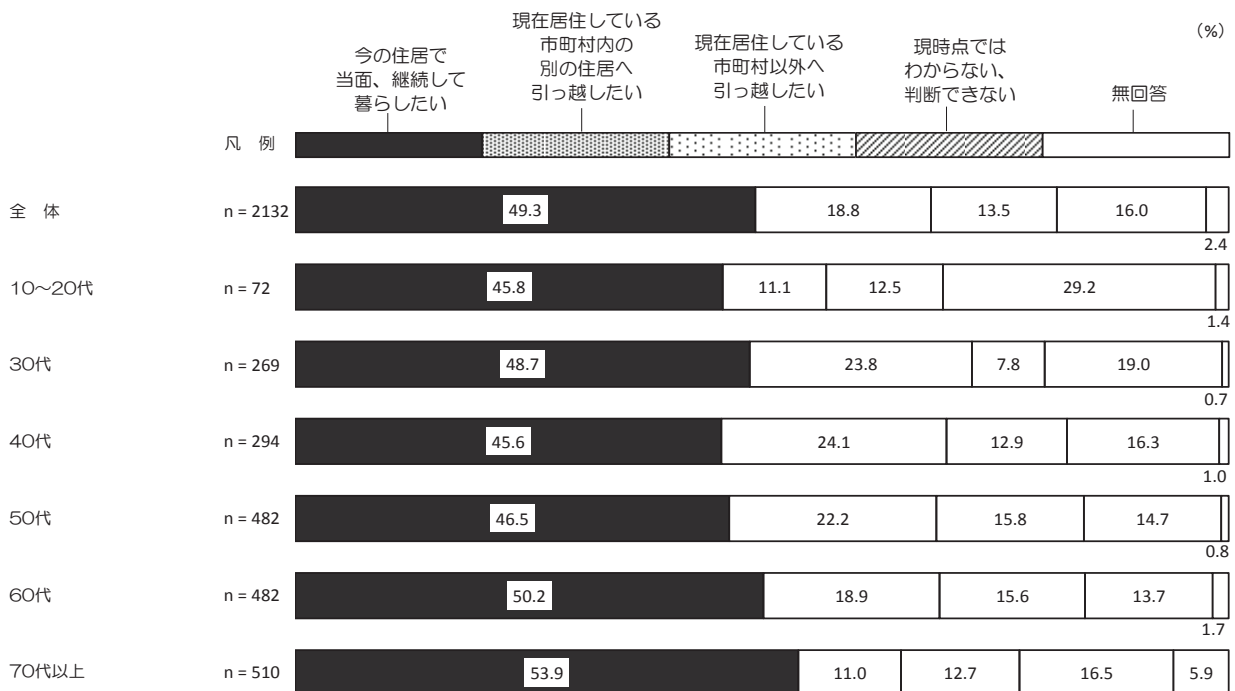
復興公営住宅以外の避難期間中の住居については、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」が 49.3%と最も高く、次いで「現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」が 18.8%、「現時点ではわからない、判断できない」が 16.0%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、いずれの年齢層でも最も高くなっているが、10~20代では「現時点ではわからない、判断できない」(29.2%)が他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-2-9-1 復興公営住宅以外の避難期間中の住居>



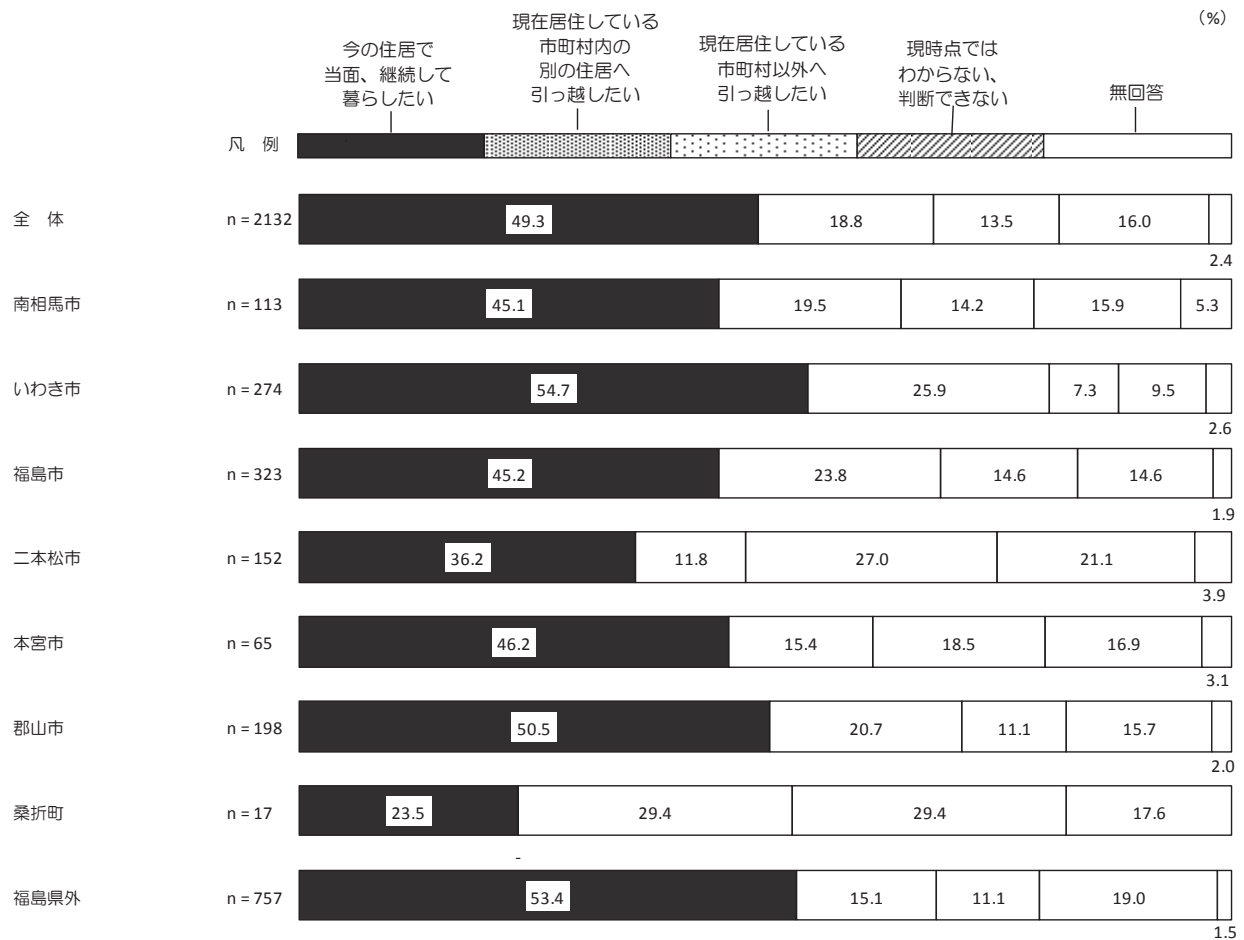
<図表3-2-9-2 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（世帯主の年齢別）>



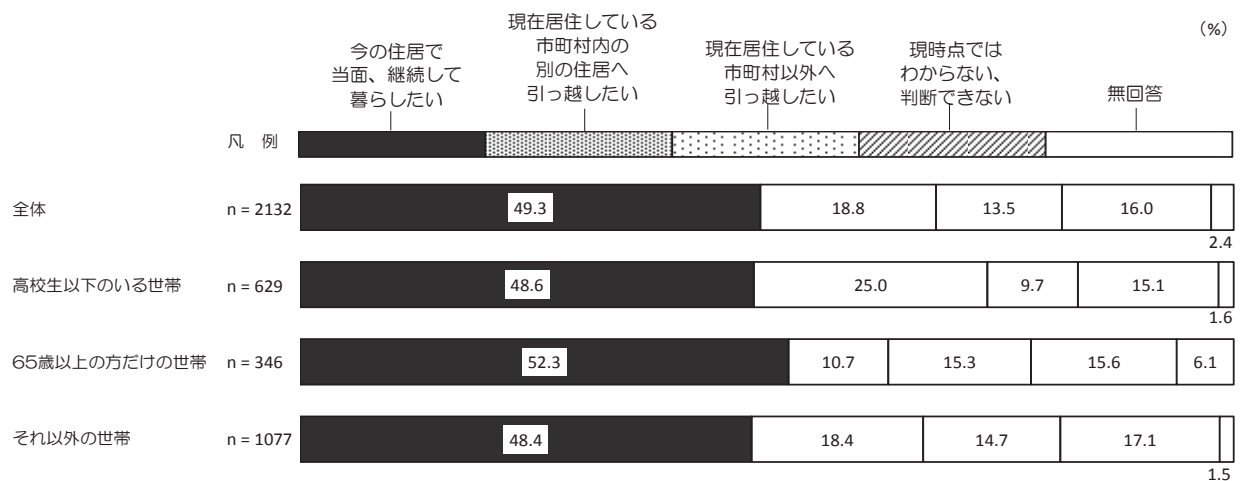
主な避難先自治体別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、いわき市（54.7%）、福島県外（53.4%）、郡山市（50.5%）で過半数を占め、他の避難先自治体に比べて高くなっている。

現在の世帯構成別にみると、「今の住居で当面、継続して暮らしたい」は、いずれの世帯構成でも約5割となっており、最も高くなっている。

<図表3-2-9-3 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（主な避難先自治体別）>



<図表3-2-9-4 復興公営住宅以外の避難期間中の住居（現在の世帯構成別）>



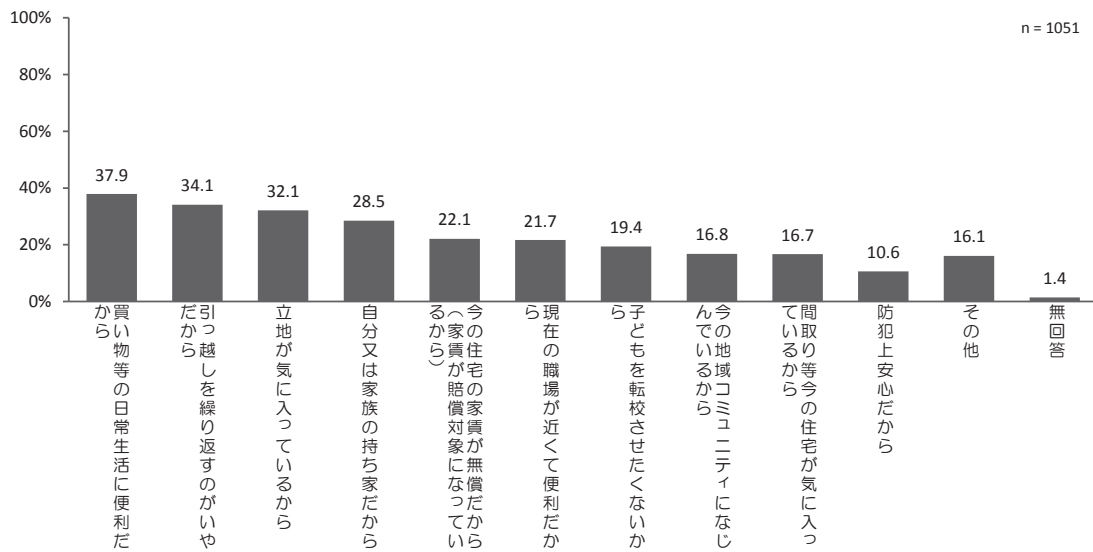
3-2-10 現在の住居で継続して暮らしたい理由

【問 12-8 で「1.今の住居で当面、継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-9 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

現在の住居で継続して暮らしたい理由については、「買い物等の日常生活に便利だから」が 37.9%と最も高く、次いで「引っ越しを繰り返すのがいやだから」が 34.1%、「立地が気に入っているから」が 32.1% などとなっている。

<図表3-2-10-1 現在の住居で継続して暮らしたい理由>



世帯主の年齢別にみると、「買い物等の日常生活に便利だから」は、50代、60代で最も高くなっているが、30代、40代では「子どもを転校させたくないから」がそれぞれ48.9%、51.5%と約半数を占める。10～20代では「現在の職場が近くて便利だから」（51.5%）が最も高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、郡山市が「買い物等の日常生活に便利だから」（49.0%）が他と比べて高くなっている。また、福島県外では「引っ越しを繰り返すのがいやだから」（37.9%）が最も高くなっている。

＜図表3-2-10-2 現在の住居で継続して暮らしたい理由（世帯主の年齢別）＞

	全体 n = 1051		10～20代 n = 33		30代 n = 131		40代 n = 134		50代 n = 224		60代 n = 242		70代以上 n = 275	
	0	%	0	%	0	%	0	%	0	%	0	%	0	%
買い物等の日常生活に便利だから	37.9		27.3		31.3		35.1		40.2		46.3		34.5	
引っ越しを繰り返すのがいやだから	34.1		30.3		46.6		43.3		34.8		33.9		24.0	
立地が気に入っているから	32.1		21.2		29.0		26.1		37.5		38.0		28.4	
自分又は家族の持ち家だから	28.5		18.2		17.6		16.4		32.6		31.8		35.6	
今の住宅の家賃が無償だから（家賃が賠償対象になっているから）	22.1		18.2		19.8		25.4		21.0		28.5		17.5	
現在の職場が近くて便利だから	21.7		51.5		38.9		31.3		33.0		14.5		1.5	
子どもを転校させたくないから	19.4		15.2		48.9		51.5		18.3		5.8		2.9	
今の地域コミュニティになじんでいるから	16.8		12.1		13.0		15.7		16.1		19.0		18.5	
間取り等今の住宅が気に入っているから	16.7		9.1		20.6		14.2		19.2		21.5		10.9	
防犯上安心だから	10.6		6.1		7.6		11.2		12.1		11.2		10.9	
その他	16.1		18.2		12.2		9.7		14.7		15.3		22.5	
無回答	1.4		-		-		0.7		-		1.2		3.6	

＜図表3-2-10-3 現在の住居で継続して暮らしたい理由（主な避難先自治体別）＞

	n	(%)											無回答
		だ 買 い 物 等 の 日 常 生 活 に 便 利 だ か ら	引 越 し を 繰 り 返 す の が い や だ か ら	立 地 が 気 に 入 っ て い る か ら	だ 自 分 又 は 家 族 の 持 ち 家 だ か ら	な つ て い る か ら （ 今 の 住 宅 の 家 賃 が 賠 償 対 象 に な っ て い る か ら ）	現 在 の 職 場 が 近 く て 便 利 だ か ら	か ら 子 ど も を 転 校 さ せ た く な い	な じ ん で い る か ら 今 の 地 域 コ ミュ ニ ティ に	間 取 り 等 今 の 住 宅 が 気 に 入 っ て い る か ら	防 犯 上 安 心 だ か ら	そ の 他	
全体	1051	37.9	34.1	32.1	28.5	22.1	21.7	19.4	16.8	16.7	10.6	16.1	1.4
南相馬市	51	31.4	23.5	29.4	23.5	19.6	31.4	7.8	9.8	17.6	7.8	5.9	2.0
いわき市	150	38.0	28.7	32.7	46.7	17.3	25.3	18.0	12.0	18.7	11.3	11.3	0.7
福島市	146	44.5	29.5	38.4	26.0	18.5	11.0	21.2	13.0	19.2	11.0	15.1	2.1
二本松市	55	38.2	38.2	30.9	16.4	40.0	32.7	23.6	20.0	14.5	12.7	3.6	1.8
本宮市	30	46.7	46.7	43.3	13.3	30.0	20.0	26.7	23.3	23.3	20.0	13.3	3.3
郡山市	100	49.0	37.0	43.0	32.0	24.0	21.0	13.0	13.0	19.0	13.0	18.0	-
桑折町	4	75.0	25.0	-	-	-	25.0	-	-	25.0	-	-	-
福島県外	404	33.7	37.9	29.7	26.2	23.0	19.8	19.8	19.8	14.9	10.1	19.3	1.5

III 調査結果

現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「子どもを転校させたくないから」(64.1%)が6割を超えており、他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-2-10-4 現在の住居で継続して暮らしたい理由(現在の世帯構成別)>

	n	買い物等の日常生活に便利だから	引っ越しを繰り返すのがいやだから	立地が気に入っているから	自分又は家族の持ち家だから	今の住宅の家賃が無償だから(家賃が賠償対象になっっているから)	現在の職場が近くて便利だから	子どもを転校させたくないから	今の地域コミュニティになじんでいるから	間取り等今の住宅が気に入っているから	防犯上安心だから	その他	無回答
全 体	1051	37.9	34.1	32.1	28.5	22.1	21.7	19.4	16.8	16.7	10.6	16.1	1.4
高校生以下のいる世帯	306	34.6	37.6	31.0	27.8	22.9	25.2	64.1	16.3	16.3	10.5	11.8	1.3
65歳以上の方だけの世帯	181	38.1	31.5	31.5	28.7	22.7	2.8	-	18.8	13.3	12.7	24.9	1.7
それ以外の世帯	521	40.5	34.0	33.4	29.9	21.1	26.5	1.3	16.1	17.9	10.0	15.7	0.6

3-2-11 避難期間中、転居を希望する自治体

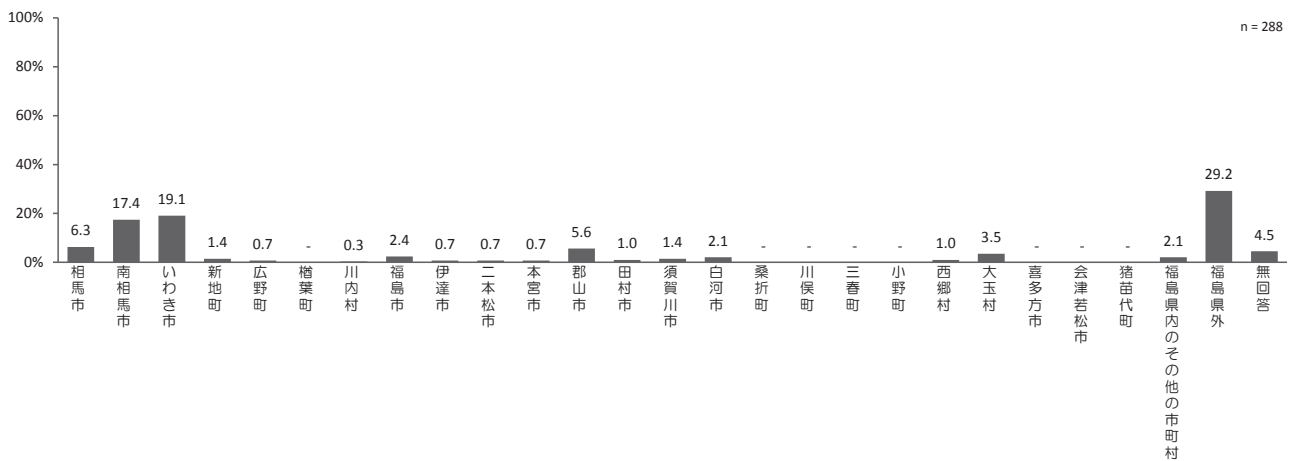
【問 12-8 で「3.現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-10 避難期間中に、転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

避難期間中、転居を希望する自治体については、「福島県外」が 29.2%と最も高く、次いで「いわき市」が 19.1%、「南相馬市」が 17.4%となっている。

主な避難先自治体別にみると、福島県外に避難している世帯は「福島県外」に転居を希望する割合が 53.6%と過半数を占めて高くなっており、いわき市に避難している世帯は「南相馬市」に転居を希望する割合が 40.0%と4割で高くなっており、

＜図表3-2-11-1 避難期間中、転居を希望する自治体＞



＜図表3-2-11-2 避難期間中、転居を希望する主な自治体（主な避難先自治体別）＞

	n	（%）					
		相馬市	南相馬市	いわき市	郡山市	大玉村	福島県外
全 体	288	6.3	17.4	19.1	5.6	3.5	29.2
南相馬市	16	12.5	-	25.0	-	-	37.5
いわき市	20	5.0	40.0	-	5.0	-	30.0
福島市	47	12.8	25.5	14.9	8.5	-	19.1
二本松市	41	7.3	22.0	24.4	9.8	14.6	7.3
本宮市	12	8.3	25.0	16.7	16.7	16.7	-
郡山市	22	9.1	18.2	18.2	-	-	27.3
桑折町	5	-	20.0	-	-	40.0	-
福島県外	84	3.6	6.0	21.4	3.6	-	53.6

Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では、「いわき市」(23.0%)と「福島県外」(27.9%)が2割以上となっており、65歳以上の方だけの世帯では、「いわき市」が32.1%と約3割となっている。

<図表3-2-11-3 避難期間中、転居を希望する主な自治体(現在の世帯構成別)>

		(%)					
	n	相馬市	南相馬市	いわき市	郡山市	大玉村	福島県外
全 体	288	6.3	17.4	19.1	5.6	3.5	29.2
高校生以下のいる世帯	61	9.8	11.5	23.0	4.9	6.6	27.9
65歳以上の方だけの世帯	53	3.8	24.5	32.1	3.8	-	20.8
それ以外の世帯	158	5.7	17.1	13.9	7.0	3.8	33.5

3-2-12 避難期間中、転居する場合の住宅形態

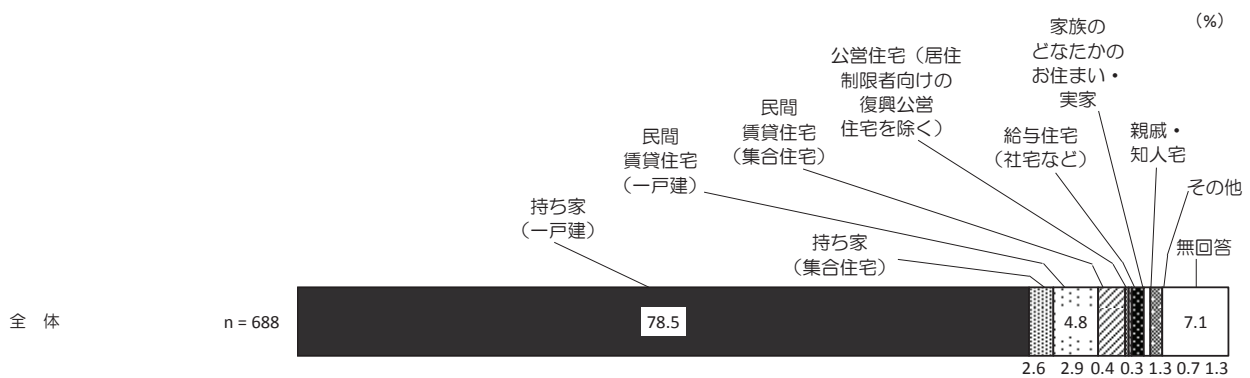
【問 12-8で「2.現在居住している市町村内の別の住居へ引っ越したい」「3.現在居住している市町村以外へ引っ越したい」と回答した方にかかっています。】

問 12-11 避難期間中の現在の居住地から他への避難先への移動を希望する場合、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

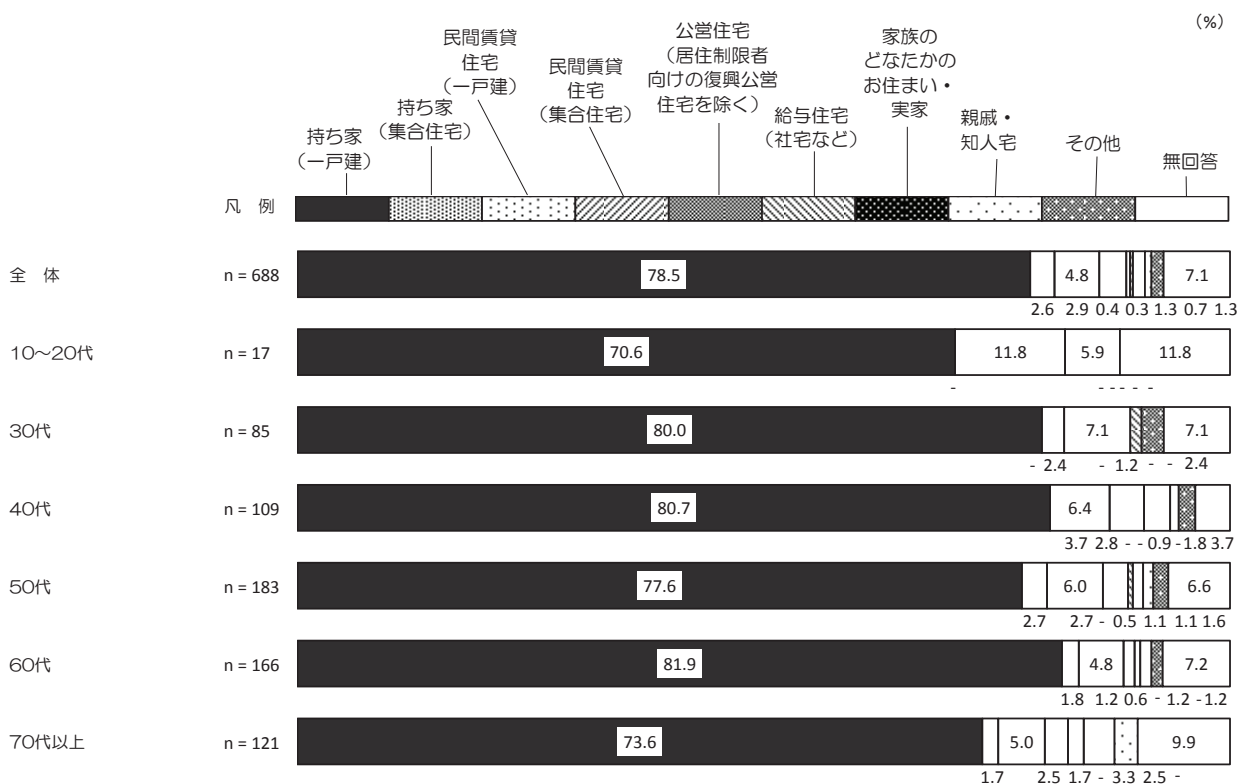
避難期間中、転居する場合の住宅形態については、「持ち家（一戸建）」が78.5%と最も高く、約8割を占めている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」がいずれの年齢層でも7割を超えて最も高くなっている。

<図表3-2-12-1 避難期間中、転居する場合の住宅形態>



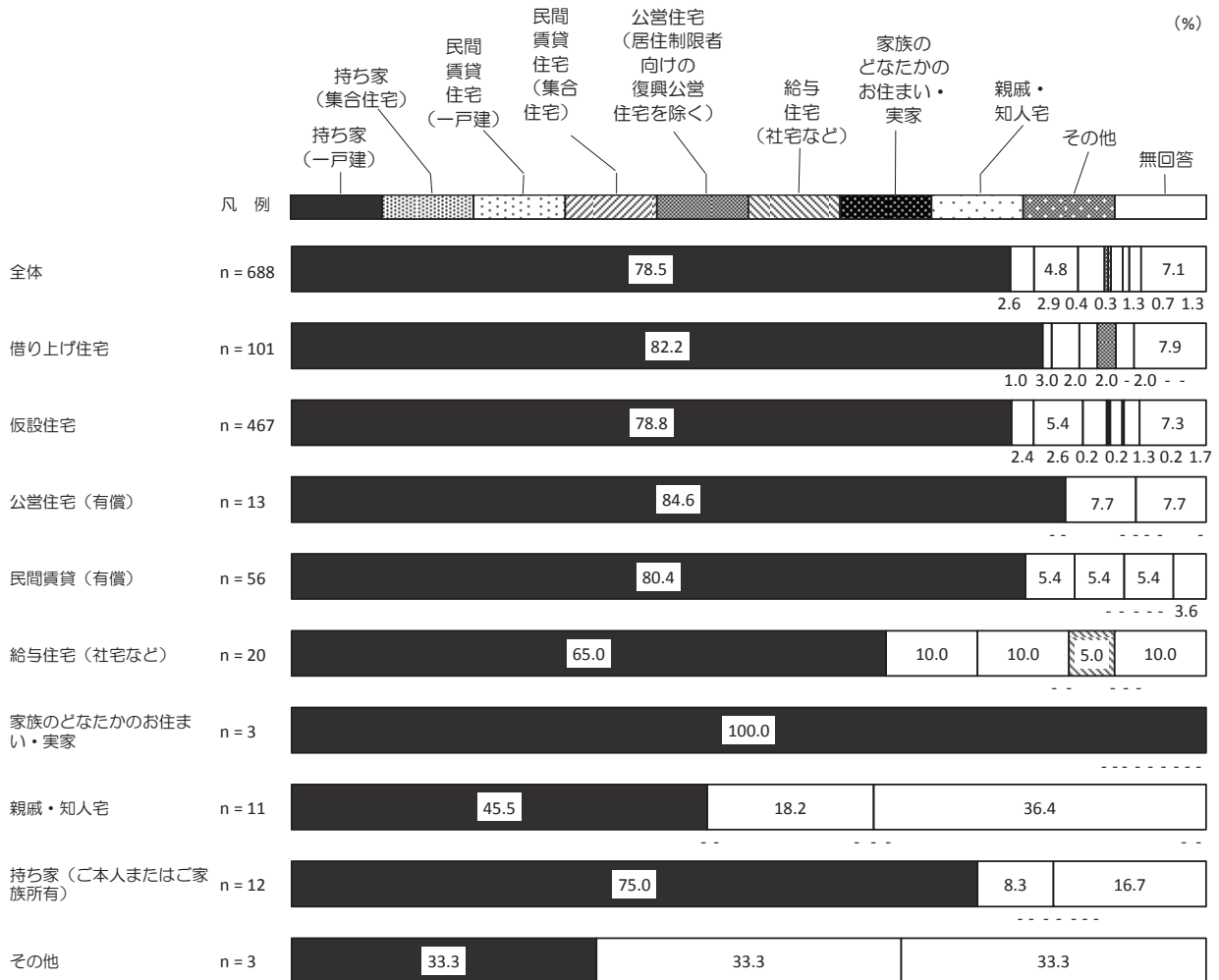
<図表3-2-12-2 避難期間中、転居する場合の住宅形態（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

現在の住居形態別にみると、いずれの住居形態においても「持ち家（一戸建）」が他の住居形態と比べて高くなっている。

＜図表3-2-12-3 避難期間中、転居する場合の住宅形態（現在の住居形態別）＞



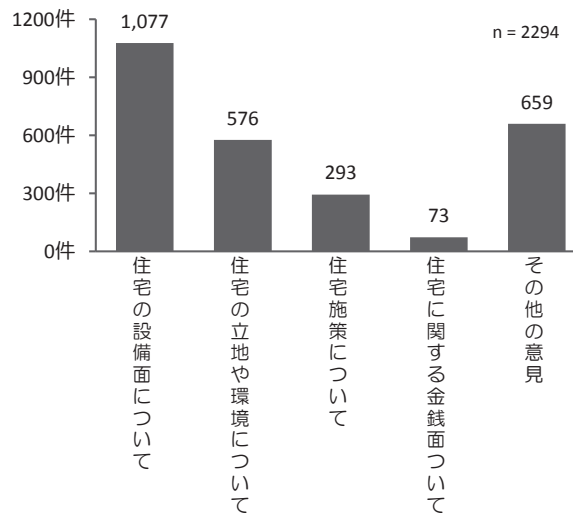
3-2-13 避難期間中の住宅や居住環境についての意見

問 12-12 避難期間中の住宅や居住環境についてご意見があればお書きください。

避難期間中の住居や居住環境についての具体的な意見は、2,294 件の回答があった。

意見を内容により分類したところ、部屋の狭さなどの「住宅の設備面について」が 1,077 件と最も多く、次いで医療施設、店舗、居住環境などの「住宅の立地や環境について」が 576 件、復興公営住宅や借上期間などの「住宅施策について」が 293 件などとなっている。

＜図表3-2-13-1 避難期間中の住宅や居住環境についての意見＞



主な意見は以下のとおり。

【住宅の設備面について】

- ・隣に住んでいる人の音が聞こえてきたり、夜中、外からけんかの声、話し声、騒音。住んでいる部屋の排水の臭いがひどい。部屋が狭い為、荷物が置くことができない。年頃の子供に勉強部屋を持たせることも出来ない。電話回線の引き込み口がないため、電話が引けない。(30代)
- ・どこに住んだとしても、浪江にいた時に建てた家ではないから、大なり小なり不満はあると思います。でも、庭のある家に住んでいた人は、避難した先でも庭のある家に暮らしたいと願っています。どんなに素敵なマンションだったとしても土に触れない暮らしは切ないばかりです。みんな復興住宅を建ててもらいたいと思っていたとしても、それは現在、進められているような形で良いと考えているのでしょうか？誰が住むのでしょうか？どうか必要なものにお金を使っただけです様、よろしく願い致します。(40代)
- ・仕事の関係で、家族が離れて生活をしている。週末には福島県の仮設に集まって、ひとときの家族だんらんの時を過ごしているが、とにかく仮設が狭くて大人5人が寝泊まりするのがかなりのストレスになっている。仮設では入居実態がなく、ただ倉庫がわりに部屋をいくつも借りている人がかなりおり、空いているにもかかわらず、もう一部屋借りたいと申し出たが、ダメだと断られた。入りたい者が入居できない現実、納得がいかない。即、調査をして何らかの改善をしていただきたい。(50代)

Ⅲ 調査結果

【住宅の立地や環境について】

- ・ 借上住宅は狭く運動不足になり、人との関わりも自分から進んでしないと一日中誰とも話をしなかったということもあり、気持ちが落ちこんでしまう。交流会などがあっても交通手段もない年寄りはどこにも出られません。(70代以上)
- ・ ここの仮設は歩いて行ける範囲内に何でもそろっているのととても助かっています。ただ一部の年配の人が「子供達がやかましい」と騒ぐ為、外で遊ぶ子供がいません。できれば次に移動する時、年配の方は年配同士…みたいな感じで振り分けて欲しいです。(40代)
- ・ 当仮設は敷地に余裕がないからだと思うが、バトミントンが出来るようなスペース、ちょっとした広場、また、集会所とは別に談話室などがあれば気軽に集まることのできるのではないかと。(60代)

【住宅施策について】

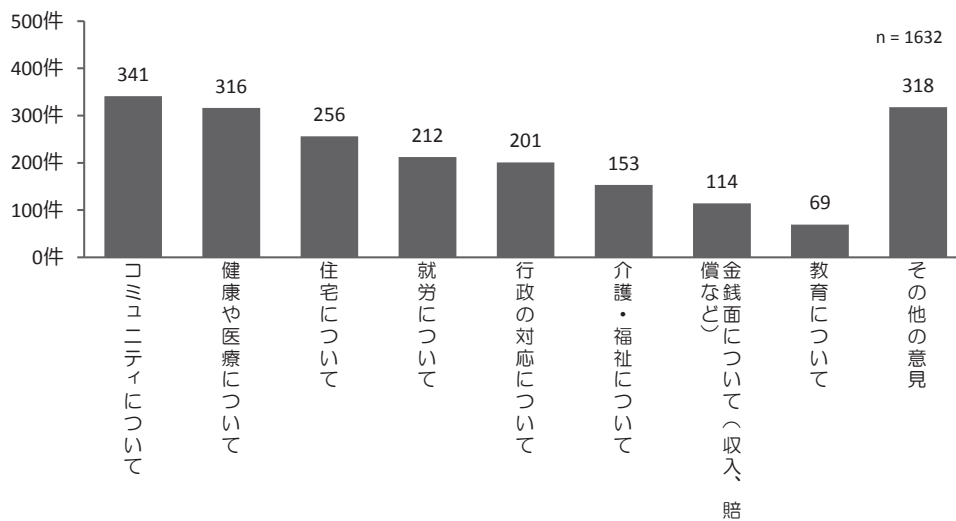
- ・ 被災後に結婚し、子供もできました。変化していく家族構成の中で、一度決めた借り上げから引っ越しできないのはきついです。去年一度引っ越しをしましたが、子供が産まれるとまた環境も変わってきますので。(30代)
- ・ 県内・県外にせよ、避難期間中とみなされる間は、家賃の補助等を、すべての被災者と呼ばれる人々にうけさせるべきであると思う。県内は県内の、県外は県外のそれぞれ苦勞は一緒だと思うので。県内だけ特別扱いするのはどうかと考えます。(40代)
- ・ 住宅の無料化(帰宅できるまでの期間)。事故で避難しているのに公営住宅の料金を払うのはおかしい。(無回答)

3-2-14 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること

問 12-13 避難期間中の生活において困っていること、改善を求めることがあればお書きください。(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)

避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めることについて、1,632 件の回答があった。意見を内容により分類したところ、避難生活の現状やコミュニケーションの困難さなどの「コミュニティについて」が 341 件と最も多く、次いで施設の不足や病気に関する不安などの「健康や医療について」が 316 件、部屋の狭さなどの「住宅について」が 256 件などとなっている。

＜図表3-2-14-1 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること＞



主な意見は以下のとおり。

【コミュニティについて】

- ・ 仮設内でのコミュニティが新しく出来ている。これを最初から作り直すことを考えると憂鬱になる。それぞれ支え合って暮している。(40代)
- ・ 避難生活はとなり近所のコミュニケーションも少なく、浪江町の親しみが無い。今までの人間関係がうまくいかない。家族もばらばらで寂しい。(70代以上)
- ・ 我家は3人家族で、私達夫婦が日中仕事に行くと、母が一人で家にいます。借上住宅の人達の交流行事もありますが、交通手段のない母は参加できません。町バスでの送迎などがあれば良いと思います。浪江町に住んでいた時の地域のコミュニティ行事などの開催を希望します。(特に高齢者を対象にした)(70代以上)

【健康や医療について】

- ・ 車もなく医療機関までの距離があり、大変。掛かり付けの医者が遠くなってしまった。(70代以上)
- ・ 自律神経とストレス、パニック障害病になり仕事に就けず生活に困っている。働きたくても病人は無理と診断を受け東電からの補償もない。昨年妻を亡くし精神的に疲れている。こんな時にいいアドバイス解決方法を教えて下さい。(50代)
- ・ 暮らし始めると、病院など、どこに行けば良いか分からず困ります。(30代)

Ⅲ 調査結果

【住宅について】

- ・ 仮設住宅では孫が来ても宿泊する事も出来ない。人間関係がうまくいかない(心をゆるす友人がいない)。仮設住宅内で隣人や、すぐに切れる人がいて、常にケンカ等している人が多く、巻きこまれない様常に注意している生活です。それゆえ集合住宅に対して、不安です。(60代)
- ・ 釘も打てず棚もなく、物入れが少なく、全てが不満。隣人に遠慮し音をたてること、TVラジオ音量を気にせず、1日24時間を自分の生活に合わせた住環境でいたい。帰りたいのに帰れない、帰れないのに帰りたい、この気持、被害者全員の気持だ。全て以上に困っている。住みたくなるような計画設計にすべき。個々の住居を返してほしい。(70代以上)

【就労について】

- ・ 仕事も、避難中のため、期間の定めがあるもの(パート、アルバイト)のみで、正社員の仕事に就けない。(30代)
- ・ 今の仕事が臨時雇用で、来年仕事なくなるので、受け入れ企業などを紹介してほしい。(50代)
- ・ 現在の歳では、就労が見つからない。現在休職中である。(50代)

【行政の対応について】

- ・ 役場機能が近くにあればと思います。(30代)
- ・ 福島市に相談することも多いが、対応が素早くとても親切である。とてもうれしい限りです。(50代)
- ・ 住民票と現住所が違う為、申請関係の際に不便さあり。(20代)

【介護・福祉について】

- ・ 今後、高齢化する両親の介護がすごく心配です。(40代)
- ・ 介護、医療施設とも遠く離れています。(60代)
- ・ 看護師の仕事をしているが、夜間、何かあったら…と思うとすごく不安である。町に対し、一人暮らしの方達への配慮を(年齢を問わず)お願いしたい。(60代)